3月號

婦人運動

第6巻 第3號

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）昭和三年三月十五日印刷納本 同三年三月十八日發行 第六巻 第三號

職業婦人社發行

新刊無產社パンフレツト

堺利彦著 改版 **社會主義大意** ……價十錢

◇社會主義は毒藥か砂糖か。貧富の始まりから勞働者の天下までかんでふくめるように、此の一冊の中に說き盡してある。誰の爲に危險なのか、資本制度の時代、資本家と勞働者、都會と農村、地主と小作人、資本制度が壞れる、帝國主義、世界戰爭其他。

ミウレン著 荒畑寒村譯 無產者童話 **なぜなの** ……價五十錢

◇プロレタリヤの少年には、プロレタリヤの生血の滲み出た、現實の、躍動する、生命のこもつた童話を與へればならぬ。本書は實にその童話だ。美しい挿圖、優しい、雄々しい文學は少年の心をとらへずにはおかない。

ゾラ原著 堺利彦譯 **ジエルミナル** ……價七十錢

◇虐げられた群が頭をもちあげ、人間生活の矛盾と不合理をあばき立て、新社會建設に志して來た。木の芽立ちのように、全世界の彼方、此方に―本書は坑夫の生活を中心に雄大、深刻、悲壯、痛烈を極めてこの間の消息を描き出したもの。

近藤榮藏著 **新ロシアの婦人** ……價十錢

◇社會主義の國『新ロシヤ』に於ける婦人の生活、社會的地位、戀愛關係、結婚生活、勞働生活等の各方面にわたつて赤裸々に、しかも名文をもつて描かれたもの婦人國有說の眞相、社會主義國の婦人の狀況を知る上に重要なものである。

堺利彦著 **婦人問題の本質** ……價十錢

◇婦人の過去、現在、未來に亘つてマルクス主義の立場より平易、明解に說き明したもので、特に我が國古代の婦人の地位變遷より近代の婦人を論究してある等他類書の追隨を許さない。婦人問題文獻の僅少な今日各階級の人々に一讀を薦める。

堺眞柄編 **ロザの手紙** ……價十錢

◇ロザ・ルクセンブルグはドイツ共產黨を創立した有名な婦人で、一九一九年一月十五日軍閥の暴徒の爲めに虐殺されたのである。本書は革命家として、學者として偉大な此の人が、一面に於て如何にやさしい性情を有したかを知る最もよいものである。

堺利彦著 **社會主義學說大要** ……價三十錢

◇マルクス學說を簡單に理解する爲に最も便利な手引書である。無產階級の獨立の學問、唯物史觀の解說、歷史進化の事實的說明の三段に別れ、唯物論と唯心論、唯物史觀と唯心史觀、唯物史觀の要領等が最も平易親切に說述されたものである。

□圖書目錄無代進呈、（但し二錢切手封入のこと）月刊『赤い風』は一部三錢年三十錢

發行所 東京麴町八ノ二〇 振替東京二四六二六 無產社

新興文學全集

豫約締切三月十九日

◎無產派文學の世界的金字塔！

◆新刊雜誌『新興文學』每月無代進呈◆

◎正義と隣人愛とを描ける、小說・戲曲・詩歌並に無產文學の評論を集大成せるもの！

◎ゴーリキイ、バルビュス、シンクレア、等を初め海外の作家九十六人に、雨雀、成吉、伊之助、廣一郎、嘉樹、等現代日本が有する無產派作家の精髓を網羅す。

◎民族もの、職工もの、海員もの、抗夫もの、農民もの、娼婦もの、曝露もの、爭議もの、等々一切の傾向的作品を包括す。

◎悉く現代のいける作品、當來の正義と理想を語るもの舊文字の腐屍殘骸ではない。

◎全廿四卷各册七百頁以上、總布製一册一圓。

◆內容見本全國各書店にあり◆

◎社會思想全集の姉妹全集！

東京麴町下六番町　**平凡社**　振替東京二九六三九

第六巻第三號

婦人運動（三月號目次）

婦人運動

三月號



婦選は如何に闘はるべきか

平塚らいてう
高群逸枝
神近市子
奥むめお

婦選運動者へ

全婦人團體よ　婦選をその綱領に掲げたる無産政黨を應援せよ

平塚らいてう

大正九年、四十四議會にはじめて新婦人協會が婦人參政權要求の請願を提出しやうとしたとき、わたくしは開會中の議會に永井柳太郎氏を訪ひその紹介者となり下さるやうお願ひしましたところ「今度は治警五條改正の請願だけにして婦人參政權の方は見合せてはどうでせう。どの道だめと知りながら提出することは却つてこの問題を不眞面目なものにするおそれがありはしないでせうか。」と氏は一應反對され、さうして婦人參政權も結局は時の問題だが、およそ何年くらゐかゝるかとお尋ねになりますので「さう、早くて十年でございませうか、しかし十年ではむづかしいでせう。」とわたくしは

お答へしたことを記憶してゐます。無論その時はまだ男子の普選案も通過せず、院外では盛に示威運動の行はれてゐる時でした。

歳月は文字通り流れます。指を折つて數へて見ると、今年はそれからもう八年目、その間議會の開かれること十回、さうして今やその十回目の第五十四議會は解散され、普選による第一次總選擧は目前に迫り、各婦選團體もまた勇敢に選擧戰の渦中に投じやうとしてゐます。

四十四議會以來休みなく繼續して來たわが婦選運動は、兩來毎議會に缺かさず婦選案を提出し、最初は請願のみであつたものが建議案となり、更に五十二議會からは改正法律案となり、年毎に婦選案なるもの丶色濃さを增し、同時に運動そのものも知識階級の少數婦人から次第に一般婦人へ、また抽象的から次第に具體的へ、理論的から次第に生活的へと堅實な歩みをもつて進展して來たことは誰れも認めるところであります。殊に久しく婦選に對して（それが政治運動であるといふので）消極的態度を見せて來た教育家連――わけても婦人教育家連が今回の總選擧を期し、婦選運動をどんな方法でかは知りませんが、ともかく自發的に開始しやうとしてゐるときいては、時代の力と共に婦選運動者たちの運動の直接間接の刺戟の大きさを思はずにはゐられません。

しかし、この過去八年の歴史を持つわが婦選運動も、今や時代の急速な變轉と共に、一つの飛躍を必要とする時期が到來してゐるのではないでせうか。今回のこの歴史的に記念さるべき總選擧を畫期として轉化、更生、第二期の運動に入らねばならないと考へるのはわたくし一人ではあるまいと信じます。

然るに婦選團體中の最も代表的のものとされてゐる婦選獲得同盟が、最近發表した總選擧對策（一月廿一日發表、朝日新聞所載）はその根本の態度において、婦選運動の將來に對する私の豫望を、期待を裏切るもので、甚だ飽き足りなさを感ぜずにはゐられません。

簡單にいふなら、か丶る對策は八年前新婦人協會が、議會運動においてやむを得ずしてとつた態度の依然たる延長であり、踏襲であつて、八年後の今日婦人參政權を或は婦選論者が婦人參政權を通じて解決せんとしてゐる婦人の諸問題を、その政策中に明瞭に揭げるいはゆる無產政黨が、新興勢力として政戰に參加した今日の時代に副ふものではありません。

私は、昨年春「轉換期に立てる日本の婦人參政運動」といふ小論（婦人の友所載）の一節に於て、婦選運動者等の議會運動が新婦人協會時代の最初から今日まで、いづれの政黨にもよらず、個人として比較的新思想を理解し、婦選に贊成しさうな代議士を各派より物色し、彼等を說いて各派聯合の形において婦選案を提出して貰ふといふやうな方法を繰返して來たことは、全政黨が婦人問題に關する一つの政策ももたず婦人に對して全く無理解、無關心の狀態にあつた限りにおいてやむを得ないことであつた。しかし、今こそ婦選運動も此在來のやむを得ざる運動の方法を捨てゝもいゝ時が來た、否捨てることの出來る時が來たのだ。果して婦選團體はこれからどんな態度でこれ等の無產政黨に對して行くことであらう来春の普選最初の總選擧對策こそ見物であるといふ意味を述べ、更に無產政黨の結成に促され、これ迄婦選運動の圈外にゐた無產婦人の間に新らしき婦人團體が組織され無產黨を通じた婦人の政治的新勢力として戰線に現はれるであらうことが十分豫想されたが、さてブルジョア婦人團體と目されてゐる既成婦選團體とこの新興無產婦人團體とは、どんな關係をもつて步んで行くことであらう、是等も注意さるべき問題であると附加して置きました。

その後一年、わたくしの豫想はたがはず、否豫想以上にさへ無產婦人運動は急激に白熱化し、各無產政黨を支持する各無產婦人團體は殆んど同一の主張、綱領をかかげ次々と生れ競爭的に運動を——主として宣傳を——開始しました。彼等が婦選の要求をいづれもその綱領の一つにもつことはいふまでもないことです。

ところが一方婦選をその唯一の目的とする婦選獲得同盟をはじめ、その他二三の小婦選團體の、婦選をその綱領にかゝげるこれらの無產政黨並びに、無產婦人團體に對する態度はどうでせう。私の見て來たところでは、それは無關心、無視冷淡等の言葉でいひ現すより外ないものだつたと思ひます。更に無遠慮にいふなら、さはらぬ神にたゝりなしで、どうやら表面、無關心を、無視を冷淡を裝つて來たかの感さへなくもありません。

「吾等は既成政黨の何れにもすがらうとはしない。否既成政黨のみならず、最近簇出した無產政黨に對しても、特に無產政黨なるが故をもつて、すがらうとはしない。若し既成政黨よりもより深い交渉をもつとしてもそれは無產政黨が何れも

婦人参政權をその綱領に掲げてゐるからで、これを無産政黨を背景として立たんとする婦人同盟に比すれば、判然とその運動の方向を異にしてゐる。卽ちわが婦選獲得同盟は、政黨に對してはどこまでも中立の立場に置かるゝもので、政黨の一般的政策に關しては全然白紙を以て臨むものである。」

これは婦選獲得同盟幹部が昨年春、その對政黨策として聲明したものでありますが、常に婦選獲得の一本槍を主張しつつある同盟として、この對政黨策は文字の面に現れたところだけではいかにも尤もなことであり、賢いことであつて、そこに非難すべき何ものも見出せないかのやうであります。しかしこの同盟が過去現在において、その政策を實行しつゝあるところを見るとき、疑惑なしにはゐられません。言ひ換へれば、此文字の裏に何かしら不純なもの、不徹底なもの自己欺瞞的な或言ひ拔けが、――少くとも婦選運動がその過去においてやむを得ずとつた議會政策に對する痩せ我慢的自家辯護と、その政策から足を洗ひかねるある惱みがひそんでゐはしないかといふことです。

何故なら、若し純眞に、素直に、そして徹底的にかれが言ふところの政策を行動に移すものならば、「政策の一般的政策に關しては全然白紙をもつて臨んでゐる」この同盟は、何のこだはりなしに無産政黨を――婦人参政權をその綱領に掲げてゐるといふそれだけのゆゑをもつて、十分正々堂々と無産黨を外部から應援することが出來る筈であり、又何のこだはりなしに無産婦人團體にこの一點においての共同を申し込むことも出來る筈です。さうしてこれが婦選團體として今日一番理窟の立つた公明正大な態度でもあると私は信じます。然るに婦選獲得同盟は（他の婦選團體も同様）これをなし得なかつたのは何故でせう。

政黨政治の本質として、候補者の個人的意見よりも、政黨の政策を重要視しなければならないことはあまり當然過ぎることであつて、賢明なる同盟幹部の人達がこれを知らない筈はないのに、故意か、不故意か無産黨が掲げたこの政策を無視し、婦選など問題ともしてゐない政黨所屬の候補者を、かれが個人として婦選の主張者であるとか、贊成者であるとかいふ理由から、或ひはかれが過去において婦選に盡力した人であるからとかいふやうな理由から應援しやうとするのはなぜでせう。殊にその總選擧對策決議事項中の「婦選のために從來盡力した候補者に對しては推薦狀の發送及び辯士發送の

方法で應援する」などはたとひ意識しないにせよ婦選運動を情實の中に引き入れるもので、某々前代議士から婦選運動が個人的にうけた恩惠に對する報恩乃至は義理だてがあり、同時にこの際報恩乃至は義理だてをなすことによつて今後より以上の恩惠に更に浴しやうとする打算があり、かくして個人的恩惠の糸をたぐつて今日の議會において何といつても多數の議席を占める點において力である既成政黨の手にすがつて普選案をともかくも通過せしめやうとする幹部の野望がありそれにはたとひ婦選の一事によつてにせよ、無産黨を應援してその反感を買ふことの不利を思つたからだと解されても仕方がありますまい。

實際かれ等は、少くとも無産黨の無力を思ひ、いかほど應援したところで、二十にも滿たない議席をかち得ることがせきの山だとすれば、案の提出さへ困難であり、よし又提出し得たとしても既成政黨の好意なしに通過の見込みのないのは明であると考へたに相違なく、なほ一つにはこの同盟がたゞ婦選の一事によつて廣く集められた思想傾向を異にする諸分子の大同團結であつて、運動の理論的立場についての明瞭な意識とその統一を缺き又その方面を常に怠つてもゐるらしき弱味から無産黨應援によつて團體内部にある破綻を生ずるかも知れないことを、少なくとも足並が多少亂れるかも知れないことを懸念したかも知れません。

しかし婦選獲得同盟根本の無自覺と不徹底は、こゝにあるのだと思ひます。

あまりに現實的で、あまりに利口すぎることは禍なるかな八年の歴史をもつわが婦選運動は今轉身を、飛躍を更生を必要としてゐます。しかも今回の總選擧こそまたなき好機會でなくてなんでせう。

わたくしは婦選獲得同盟が率先して、この際婦選運動が今迄やむを得ずしてとつて來たその傳統的政策を未練なく捨て「婦選のため從來盡力した候補者云々」の決議を速に撤回し純理論に立つて婦選を綱領に揭げる全無産政黨を、その候補者を應援することを改めて決議し聲明するであらうことを、また全國の婦人に對して、婦人に理解ある人格者を（何といふ曖昧にして卑怯らしき表現であることよ）當選せしめるやう云々の代りに無産黨の候補者を當選せしめるやう努力することを要求すると改めるであらうことを、更に他の小婦選團體をも勸說して同一の對策をとらしめるやう努力するであら

うことを望まずにはゐられません。

私が今夢想し、要望するところの全婦選團體聯合のこの決議とそれの實行は、(場合に依ては決議だけで十分の實行が伴はなくとも)わが婦選運動の方向に一大轉化を與へ、新天地を打開し、飛躍、更生、を遂げしめるであらうことは疑なくわが婦選運動史はかくして公明な、愉快な、そして一層活氣あるものとなるに相違ありません。又この決議は從來婦選に無關心だつた既成政黨を刺戟し、いゝ意味にせよ、悪い意味にせよ、ともかく婦選問題に對する以前の冷淡さを續け得なくすることは確かであつて、婦選をして各政黨内の問題となさしめる機運を促成し、或は却て既成政黨自身が競爭的に婦選案の提出を急ぐといふやうな反對の結果を招致しないものとも限りません。

幸ひにして相互の排撃にのみ多忙であつた各無産政黨も、無産婦人團體も、總選擧に直面して合同の途につき、その戰線を統一したことは、確に婦選團體が、無産婦人團體と共力提携全無産政黨を一様に應援し得る可能性を與へてくれたものです。

元來婦選の如き全婦人の解放に關する問題に對してまで、婦人自身が階級的對立をもつて臨むことは望ましいことだとは思はれません。何につけても階級意識の高調される今日の時代においては、婦人界も又ブルジョアとプロレタリアの二つに區分されてはゐます。併し婦人の立場に於いて一歩深い意識にはいつたとき婦人の中には眞にブルジョア階級といふものがあるでせうか。いはゆるブルジョア婦人とは甘やかされたる奴隷としてブルジョア階級(もとより男性の)にたゞ隷屬してゐる婦人ではないでせうか。いはゆるブルジョア婦人も自覺すればいはゆるプロレタリア婦人と共に、かの女等が婦人である限り現社會においては等しく被支配階級者であり、無産階級者であり、一個のプロレタリアであることにおいて兩者の間に本來何の相違もない筈であります。

故に、所謂ブル婦人もプロ婦人も又ブル婦人團體もプロ婦人團體も婦人としての共通な立場を確實に意識したならば、婦人解放運動の前に全婦人が一致團結することはそれほど不可能ではない筈です。

婦選獲得同盟よ、全婦選團體よ、婦選をその綱領に掲げるところの無産政黨をためらふことなく應援せよ。(東京日日紙上より)

普選と婦人

——一つの立場からの見解——

高群逸枝

普選と婦人の態度

　近頃の新聞記事ほどいやなものはない。ある婦人は民政黨の應援に、他の婦人は政友會へ、あるひは勞農黨へ、社民黨へといふやうに、まるで八方に分れ分れになつてゐる。それはその夫が民政黨であり、兄弟が政友會であるなどのためで婦人としての立場は認められない。勞農黨所屬の婦人闘士はいふ。「勞農黨こそ純無産意識に立つもので、他の無産黨はエセである」と。そしてそれはたれか知らから口移しにきいたことで、何故純無産意識であるか、婦人意識をどう擁護するかの問題になつてはほとんどといつてよいほど無自覺だ。又日勞黨所屬の婦人は、それが穩正であり、日本の無産黨として地についたものだからといふし、社民黨所屬のものは、それでまたそれらしいことをいふが、いづれにしても皆が皆、その判斷は常識以上であり得ない。といふのは「婦人」としての徹底した自覺と反省との上に立つたものでないから。

　まだしも婦獲同盟の態度を私はよしとする。いつか鐵箒欄で、たれかが婦獲同盟の態度を娼婦的だといつた。それは「婦選に贊成の候補者ならその政黨の如何を問はず應援する」態度をさういつたのであらう。けれど有産無産を問はず、いやしくも政黨　稱するものの對婦人的意圖について、さ少なりと知識あるものの目からは、それらの各政黨の甘やかな口車に乘り、盲目的にそれに身を託する無自覺な態度よりは、婦人の問題を支持せよといふことを事實上において强要する婦獲同盟の現實的な態度の方が、態度としては幾らましであるか分らない。

普選と婦人の立場

態度の如何は立場によつて決せられる。この未曾有の然して無自覺的な分裂狀態にして婦人は今や自分の立場の何であるかを、眞劍に考へて見る必要に迫まられてゐる。

第一、婦人は餘りにも、議會政治といふものがどんなものであるかについて無智であり過ぎ、おめでたに過ぎる。普選と婦人の關係について、近頃よく質問をうけるが、私はいつも答へる。普選は婦選の前提であると。事實、婦選といふものが見越されなかつたなら、どんな無產政黨でも、婦人に對して好意を示すやうなことはないだらう。それあるが故にのみ彼等は婦人に對して親切である。また、それあるが故にのみ彼等は婦人を階級的に分裂せしめず「婦人」として特殊視し尊重する。

彼等は婦人の利益を擁護することを申し出る。不平等法律不平等待遇、母子扶助、深夜業等々これらはすべて「婦人」の問題であつて、彼等の問題ではないが、それを親切にも解決することを申し出る。

事實それは「婦人」の問題であつて、彼等の問題ではない。彼等には他に自分の問題がある。婦人の問題などは、彼等としてはあとまはしにか、副次的にか、申し譯的にかでなくては遣り切れないのである。だけれども、それをさういつたのでは、婦人を、婦人の選擧權を、婦人の投票を引きつけることができない。即ち婦人の利益を擁護してやると申し出る。

この口實によつて、兎もあれ婦人を引きつけることさへ出來たなら、もはや彼等の婦人に對する目的は達したのである婦人の利益とか要求などは、始めから問題にはなつてゐないのだ。たゞ、婦人の信用を持續せしめねばならない必要上からあとまはしにか、あるひはまた副次的にか、申し譯的にか婦人の問題を時たま議會に提出するぐらゐでお茶を濁すだらう。こゝには政策的な意味が主で、實行的な意味は薄弱だ。

これは見え透いてゐる。無產黨それ自身としてはかやうなことは不本意であらうけれど、議會政治の性質が、餘儀なく無產黨をして、かうした結果におちいらしめる。そこで婦人たるものはよくよく自分の立場を考へてかゝらねばならない即ち、一口にいつて見れば、婦人を彼等が擁護するのではなく、彼等が婦人に擁護されねばならないのである。

こゝにおいて、婦人の立場に二つあることが考へられてく

る。その一つは現實的な立場——婦人としての現實の特殊の利益を獲得することをもつて第一とする立場。この立場からすれば、婦人は獨立的でなくてはならない。うかとだましの手にのつてはならない。

第二の立場はこれに反して理想的な立場——即ち、婦人としての現實の問題などは後まはしにしてもよい、たゞ婦人は無產階級を支持し、無產階級を擁護せねばならないといふのだ。

所で何が故に無產階級を擁護支持せねばならないかといふ問ひが起る。その答へは無產階級社會のみが、婦人を全的に解放するからといふにある。しかし、ここにまた問題があるたゞ單に無產階級社會といつても、その原理は大體二つに分れてゐるが、そのいづれが婦人を解放するか。集權派か聯合派か。

現在の各無產政黨は、その原理において、ひとしく集權派であるが、もし婦人の解放が、集權派の社會によつてのみ成しとげられるものなら、婦人は各無產黨を擁護支持すべきであらう。

然し、それに反して聯合派の社會のみが婦人を解放するものであるならば、各無產政黨を支持すべきではない。婦人はそれから獨立して、他の經濟主義無產團體の一翼としてのみ在るべきだ。

普選と婦人の團結

今や婦人達は、普選に刺激されその當初の總選擧に逆上してあれこれと騷いでゐるけれど、その大部分が、一時の空騷ぎに終るものであることは見透される。

普選の珍らしい間は、政治のことで夢中になりやすいが、今後二三回も總選擧がくり返されるうちには、興もさめるしそれに各無產政黨もわるくいへば墮落、よくいへば實際化してくる。イギリスの勞働黨に對して、反動勢力だと惡口をいつてゐるが日本のはもつと以上のものになるかも知れない。その目的意識などは長年の間に緩和されてゆくだらうし、帝國主義的になるだらう。その內部には、多くの不正事件の機緣さへも熟してゆくだらう。

組合主義運動は、その時再びたい頭するにちがひない。また純マルクス主義も、それから離れて、孤立するだらう。あだかもドイツに於けるかやうに、そして、イギリスにおける

やうに。

その時わが婦人達はどうだらうか。漸く本然の自己意識に立ち返り始めて落ちついて婦人としての立場を考へ、合一の機運をつくるであらう。

小娘共が讀書をする。その讀書が少し進むと恐ろしいことをしでかすといふが、今は丁度、その讀書の少し進みつゝある時である。そこで彼女達は盲目的に突進するけれど、やがて社會の實際的敎科書が、その目をあけてやるにちがひない。

然し、私がこゝで問題にしてゐる婦人の團結なるものはさういふ消極的な合一をさすのでは全くない。さういふ外部からの影響に因るものではなく、内部からの、そして積極的な自己意識からの團結であらねばならない。

たとへば各無産政黨の分裂線に沿うて分裂してゐる無自覺的婦人團體は、それらの政黨の合一と共に合一するだらう。そこには何等の見識も、主義主張もない。さういふ意味の合一を私は團結とはいはない。

ではそれはどういふものであるか、取りも直さず、徹底的に婦人意識に目ざめた者達の團結、もしくはその形式に基づく團結であらねばならない。

そして、さういふ團結が、今や芽生えねばならない。否、もはや芽生えつゝある。この芽生えが、やがて相當に成育した頃、今日の無自覺的分裂者流の消極的合一が行はれ、それが我等の團結の中へ落ち込んできて、我等の鑄型によつて鑄直されることにならう。(東京朝日紙上より抜萃)

高群逸枝氏の普選論

神近市子

總選擧といふ政治的の一つのモメントに遭遇して日本の婦人界も遽かに色めき渡つてゐる。こんなことは實際これ迄にはなかつたことで、これをもつて見ても今日といふ時代が、日本の民族の未來にとつてどんなに重大な位置にあるかゞ窺

はれると思ふ。

今度の總選擧に當つて、婦人の參政權獲得を目的とする婦選獲得同盟の婦人達は政黨別にならないで婦選に贊成の意志を表示して來た候補者達を支持援助するいふことを決定した婦獲同盟がブルジョア階級乃至小ブルジョア階級の婦人達の結束であることを考へれば、この態度は寧ろ當然な態度で敢て怪しむには當らないのであるが、既に階級の對立を認めてゐる少數の婦人達の中に、この婦獲同盟の態度を支持是認する態度を示した人があつたことは奇怪である。最近四日間にわたつて「朝日」に掲載された高群逸枝氏の文章がそれである。

高群逸枝氏の「婦人」主義の主張は結局洗つて見れば階級鬪爭の前に性鬪爭を持つて來やうとする過てる態度である。

日本の革命的インテリゲンチヤ婦人達の間では、この問題は一應解決されてゐた筈である。日本でブルジョア婦人運動が充分に發達しなかつたのは、遲れて資本主義國家としての過程をとつた日本が前に歐米の資本主義國家が久しくかゝつて經驗して行つた全コースを極めて急速なテンポによつて經過して行つた爲めで、高群氏がどこかで歎息して居られるほど別に歎かはしいことでも不見識の結果でもないのである。自由主義の精神によつて眠りをさまされ、婦人としての鬪爭的態度に出つゝあつた進歩的な婦人達が、更に社會主義によつての再教育をうけて階級意識に目覺ざめ、社會主義運動によつて婦人自身の問題をも解決して行かうとする意志を持ち始めたことは無論正しい態度であつて、久しく自由主義の泥濘に足をとられてそこよりの進出は絕望的であると見られてゐた平塚雷鳥氏さへ最近「日々」に發表された婦選同盟への警告に於いて階級對立を認める態度を示して來られた。

高群氏は、よほど前から階級的關心を示して來た人である。その高群氏がどうしてこんな時代錯誤的過失を犯したかといふことについては、元來が推理的考察に不向きなやうに見えるその性情の然らしむるところであるには相違ないが、一つは近來社會の各方面に可なり無自覺に叫ばれてゐる「非政黨主義」の主張の影響と、又今日の無產政黨の全部を集權主義(共產主義)の運動と誤認したことから生ずるその自由聯合主義（無政府主義）の立場からの偏見であることは明かである。

婦人主義の立場からせらるゝ非政黨主義の主張と、今日無

産政黨の內外に於いて一部の人々によつて提稱されんとしつゝあるかに見ゆる非政黨的機運とは、決して本質的に同一なものでない。無産政黨のそれはこれらの政黨が代表してゐる無産大衆の利益を最も效果的に代表せんとする一主張であつて、決して既成政黨をも包含しやうとするのではない。けれど階級別を問はぬ婦人主義の主張は、有産階級の利益と維持とを念とするブルジョア乃至小ブルジョアの婦人達とも共同戰線を張らうとするもので、その主張が娼婦的であるとすれば、反動的であるとされても仕方はない。

ブルジョア的婦人運動は、階級の對立を認めず唯性對立のみを認むる運動である。從つてその運動はどこまで發展し展開して行つても皮相的であり形式的であり解決の根幹に觸れることがない。婦人運動の全過程の展開が社會生活を助けるのなら、今日のイギリスやアメリカはもう少し何とかなつてゐてもよい譯である。そのアメリカやイギリスが今日のやうに最も反動的な國家となり、反對に社會主義を國是としてゐるロシヤで婦人の地位が一番進んでゐるのは何うしてゞあるか。

結局、前者が、皮相的な解放なるものが本質的な婦人の地位を少しもよくすることが出來ないことを示してゐる一方で後者は階級的の自覺による變革が、どんなに根本的に婦人の地位を向上せしめるかを示してゐるのだと思ふ。

階級對立と婦人の隷屬とを、私有財產制度といふ一つの原因から生じた二つの結果だとする近代唯物論の見方は、こゝでも正しいことを證明されてゐる。階級對立の事實を無視しなくてはならない立場にあるブルジョア階級の婦人達が、婦人主義による婦人運動に狂奔するのは當然のことである。しかし日本婦人中の精鋭ともいふべき婦選獲得同盟中の新進分子や、高群氏のやうな革命的インテリゲンチヤ婦人が、彼女達が吹く笛によつて踊るやうなことがあつてはならない。

婦人の本質的な解放とその自立とを望む者は、階級自覺をもつ無産政黨のみを援助すべし。階級矛盾の解決によつてのみ、婦人の完全な解放はできるのだから。そして無産階級の議會への進出は、階級鬪爭の全部でもなければ大部分でも決してあり得ないが、しかしそれは鬪爭の一部であることは事實であるのだから。

大衆の階級的自覺を攪亂するやうな態度に出でなければ、婦人參政權の獲得運動ができないのであつたら階級鬪爭に關

心を持つ者は運動を放棄する態度に出ることが正しい。しかも單なる功果の點から云つてさへ、ブルジョア陣營内にあつて擧げらるゝ聲によつてよりは、對立する階級の陣營内に於いて擧げらるゝ叫びに既成政黨の興味はより多く動くのではないであらうか。この點では私は六日の「日々」に發表された平塚雷鳥氏の意見に全然贊成である。(讀賣紙より)

婦人は無産政黨を支持せよ

奥むめお

一月二十一日議會が解散になつて總選擧だ！ といふ聲が巷に充ちてから、わが職業婦人社も人並みに忙しい思ひをしてあわたゞしく暮しました。さすがに、一月ぢうは割りに閑散でしたが、二月に入つて戰ひが白熱して來てからは、敵味方の情報を齎らしがてらお茶一杯、ちよつと一休み、といつた風にして飛込んでみえたお客も多く、又、婦人の應援辯士依賴のために、既成政黨からも無産政黨からもひきも切らずといふ有樣でありました。これは私が昔、婦人の政治運動に携つてゐました當時の舊知の人々から來る誘ひがあつたり、無産政黨にしても、幾つにも分れてゐる無産黨のどちらにも私が就いてゐない事情から、そしてどちらにも親しい友人が尠くないので、方々から依賴をうけることになつたわけでした。私は、無産政黨の候補者應援のために殆んど毎日引ばられてしまいました。

婦選團體（婦人參政權を目的にして集つてゐる團體）ではどの黨派に屬してゐやうとも、婦人參政權に贊成の候補者には應援する、といふ立場をとつてゐたのですから今度のやうな場合どんなに忙しかつたことだらうと想像されます。

應援演説とは云ひながら、滅茶苦茶に候補者その人をほめて、扨てどうぞこの人に一票を、といふ應援辯士を私はいつもケイベツしました。いや、私は個人的な推せんは殆んどしないことにしてゐました。私たちとしては個人としての某々氏を當選させることとその事が唯一の目的では決してないのですもの。代議士になる事が目的の一切である既成政黨の連中は、この事情が全然違ひますが、私たちにとつては、その人の屬してゐる政黨――卽ち無産政黨こそわれ〳〵の政黨として、われ〳〵が協力して支持しなければならぬものだといふその理由を成べく解り易く人々に聞いて貰ふのが、第一條件であつたからです。

普選になつて初めて一票を握つた一千萬の新しい有權者はみな財産上の制限のためにこれまで參政權を許されてゐなかつたもの卽ち無産階級者であるわけですが、この一千萬の新有權者に、はつきりと自分たちの立場を見つめて貰ふこと、そしてこれまで自分らの生活を踏みにぢつて來た既成政黨の正體をはつきり見究はめてゆくことに依つて、無産階級者の政黨としては無産政黨があるばかり、無産政黨の候補者の外に、自分たちの一票を入れるところは決してないのだといふ事を皆に知つて貰ふことが最大條件であるのでしたから。

勿論女は、この意義ある普選の首途に、一票のもつ權利を與へられずにしまつた取殘され組みです。然しながら國民の半數を占める女の存在を無視して果して完全圓滿な政治が行はれるでせうか。婦選なくして何の普選ぞや。婦人としてのこの憤りをも私たちは特に婦人としての立場から聽衆に訴へて、普選は當然に婦選を伴ふべきであることを徹底させる必要もあるのでした。

當選第一主義で立候補した既成政黨の連中に應援に行つた女の人たちでも、この點だけは努めて下さつたことと思ひます。無産政黨では、初めから、當選するか否かといふことは第二の價値においてまづこの總選擧といふ絶好の機會を利用して民衆の支持すべき政黨は無産政黨より外にないこと、既成政黨がこれまで如何に國民の前に欺瞞をたくましうして來たか、その事を具體的實例を以つて一つ一つみんなの前に曝露してゆくことに努力を集注したのでしたから、私たちが、無視された女の立場を主張するのも大層好都合でありました。

×

婦人は一人殘らず無産政黨へ。何故私は、婦人の支持すべ

き政黨は無産政黨より外にないと主張するのか、と、とはれるならば、婦人を既成政黨の欺瞞より救はねばならぬからだと答へませう。そして婦人の解放といふ事と、無産階級の解放といふ事は一つであつて、二でない關係にあるもので婦人の完全なる解放は、全無産階級が解放される日初めてえられるものであるからそのためには婦人は、現在無産政黨が掲げてゐる樣な政策を實行するために無産政黨を支持してそこに有力な鬪爭力を作りあげなくてはならぬのです、と云ひませう

丁度昨今、婦人の參政權運動はあくまで階級的な立場から進められなければならぬといふ主張（私もこの中の一人）といや、少しでも早く參政權を實現するために、とにかく大政黨の力をかりた方が得策だとして、超階級的立場を主張するものと互ひに論戰してゐる位でありますが、私は、萬々一今の婦選運動者の努力の結果既成政黨の手に依つて婦人の參政權が許されるとするならば、その時は必ずや、既成政黨の連中が、婦人の新有權者の大部分を利用出來る！　と見込みをつけた時にちがいないと思ひます。それほどに、既成政黨がこれまでに行つて來たやり方はあまりに當然の權利を與へるのにも、國民の必要を充たすのにも、汽車一つ橋一つをつけるにも自黨に有利な條件——或ひは彼らの支配力を固めるための用意が備はらなければ、決して、單に、それが正當だからとか、それが國民の要求だからとか云つて、おいそれと適へて呉れるものでないことが、あまりに明らかだからです。

×

政黨と云つても、既成政黨は、そこに何ら思想的政策的な主張をもつてゐない、政權と私利を目あてに離合集散してゐる我利〱にすぎないでありませんか。かういふ政黨に婦人大衆が利用されるといふことは、實に危險なことです。私はかういふ意味で、單に、現在政友會と民政黨が大きいからといふだけの理由で、彼らの手に縋つて女の參政權を一日も早くえやうとする一派の主張に反對します。單に權利としての參政權を女が得さへすればそれでいゝのでは決してないのです婦人の完全な解放を到來させるための一つの便宜、一つの武器として參政權を婦人は要求するのでなければなりません。婦人大衆がそのもつところの權利のために反つて惡く利用されて、國民を禍に導くやうなことになるとしたら、何と、私達は今、危險な一點に立つてゐることでせう！

それに反して既成政黨とは、立黨の精神に於て全然異る無

産政黨は、その階級的な主張が當然に、女にも參政權を與へなくてはならぬといふ立場にあります。長い間、支配されて來た者、壓迫されて來た者として、無產階級は當然に女を含めた立場から解放を主張してゐるのですもの。そのための武器として、女も男と同じやうに公民權結社權參政權を持つて共々に闘つてくれなくて困るからです。無產政黨の政綱にどれも、婦人の問題を含んでゐるのは、近い將來に參政權をうるに違ひない女に對しての御機嫌とり政策では決してなく、婦人の問題は即ち全無產階級の問題であるといふ立場から、その階級的な立脚點が當然に男、と女、といふ性の相違から二つに分れることを許さず、とも〳〵に今の社會に於て被支配者、被搾取者として共通の立場におかれてゐる事を自覺するのです。從つてとも〳〵に力を協せてその解放へ！　進むために、現在、男よりももつと立ちおくれてゐる女の問題を今、無產階級の男子たちは自分の問題としてこれをとりあげて社會に向つて要求してゐるのであります。(既成政黨こそ、婦人參政權を入れた方が得策だらうといふので目下賛否の議論がされてゐるさうですが)

婦人は、その働きさきである處の臺所から、事務所から、教室から、工場から、坑山から、無產政黨があくまで勇敢にわれらの利害のために闘つてくれる樣に熱烈に支持應すべきだと思ひます。

然し、考へてみますと、十年前普通選擧は危險思想なりとして議會を解散した政友會が、同じ政友會の天下で普選第一年の總選擧を行つたのです。而も、普選に依る新有權者に對していろ〳〵行つてゐる御機嫌とり政策の露骨さを御らんなさい。時勢の變遷は實にいろ〳〵のことを思はせるでありませんか。

勿論普選と云つても、現在は過激法とか、暴力取締法とか云つた反動法律で歪められ、普選そのものさへ、煩はしい施行細則で骨拔きにされてをり、又婦人を除外した、まことに狹められた不完全なものにすぎませんけれど、とにかく、大衆の政治的進出に對して阻止する力を失つた支配階級の退却振りは誠に痛快です。婦人は、この時代と共に加つてゆく大衆の威力こそ即ち婦人自身の中にもうごめいてゐる解放への熱望であるといふことを、そしてこれこそあかつきは近しの鐘の響きだといふことを知らなければなりません。そして、女としての私たちもかうした大衆運動の一翼として、いやいやその中に溶けこんだ半分の力として進まねばならぬのだと信じます。

何が彼らを病氣にしたか？



合同は婦人から！

堺眞柄

婦人同盟が、三つある。といふよりも強いて、又は好んで、三つに孤立してゐる感がある。

或る人は、組合が三つある様に、政黨が三つある様に、婦人同盟も三つなければ、納りがつくまいぢやないかと云ふ。三幅對あるからこそ、床の間の飾りものにもなるのぢやないかと云ふ。

九つもの掛軸を持つ、何と裕福なる無產階級であらう。

だが、掛軸は九つでも十でもいゝ。掛けらるべき、其の床の間はどうだ。

無產階級運動といふ、世界中の凡てのものよりも、根づよく、堅牢に地馴らし出來た地盤こそ、我らの床の間ではないか。組合でも政黨でも、婦人同盟でもそこに樹立されてこそ、輝きがある。

然し現在は、日本の現在はその一つしかない床の間を、互ひにかぢり取りつゝあるではないか。幾多の犧牲と忍耐によつて、やつと形をそなへた、その床の間を、一枚の板、一本の棒に切り離な相としているのではないか、

掛軸の堂々しさに比べて今日我等の床の間の何と無雜な事であらう。

破れ床の間に、何と多くの掛軸を持ち込んだ事だらう。

×

私共は、一揃の武器で多くさんだ。

空氣銃、鐵砲、ピストルの三通りをもつてマゴ〳〵するよりも、敵を斃すのに最も好都合な一打　もつて皆んな一緒に突き進んでゆきたいのだ。

元祖爭ひの激しい黒焼きよりも、科學的に醫學的に、最も親切な醫師が調劑した一粒の丸藥が欲しいのだ。

廣告による神藥、奇藥より、名醫の一本の注射に信賴するのだ。

無產階級運動は、ゴミ溜ではない。

ミツシリと固まつた無產階級の一團から、ハツシと投げつけられる、組合、政黨、婦人同盟にこそ、威力があるのではあるまいか。

×

三つの婦人同盟はどうして創立されたのであらうか。最も簡單に云ふならば婦人は政黨に、加入出來ないから、婦人同盟創立の聲が出て來たのだ。そこで三つの政黨に、取り殘された婦人は、三つの

政黨を背景にして三つの婦人同盟を創立した。

論をまたず、全く、今日まで訓練をして來た婦人を、おいてきぼりにして、そのまゝ打捨てゝおく馬鹿もない筈だ。その點で、婦人の團體が、生るべきだつた

勞農黨系に屬する婦人を組織する爲にではなく、

日勞黨系に屬する婦人を組織する爲にではなく。

社會民衆黨系に屬する婦人を組織する爲にではなく。

目前の婦人の利益と鬪爭する所の婦人大衆の集團が生るべきだつた。

けれども、出來上つた、それ／＼の婦人同盟は、それ／＼政黨に、蝣蜉介在しているものだつた。それ／＼の婦人同盟は、それ／＼同じ様な綱領を、かゝげてゐた。同じ利害關係に鬪ひ立ち、同じ綱領をかゝげながら、別に運動を開始するといふ、不思議な、現象を呈してゐた。これは、婦人同盟に限らず、凡ての我が陣營內での傾向なのだから、止むを得ないのかもしれぬが、三つに分れてゐる事が、便利であり、利益であるのだらうか。

無產婦人同盟は、無產婦人が、無產政黨に加入出來るまで無產婦人の爲に、鬪ふべき機關では、ないのだらうか。

無產婦人運動は、無產階級運動によつて解決されるのだから、無產婦人が、無產階級運動に、何らの障害もなく、突入出來る場合には、特に無產婦人團體が、獨立して存在する必要がないのではなからうか。

そこに、無產婦人團體、無產婦人運動の目的があるのではなからうか。

その障害をなくすることに、無產婦人團體の存立の意義があり、使命があるのでは、なからうか。

だから、無產婦人同盟は、目前の共通利害を取りあげて、鬪ふべきではなからうか。

その爲には、社民的傾向も、日勞的傾向も、勞農的傾向も、色分けすべきでなく、婦人大衆と共に、活動し、鬪爭すべきではなからうか。

賑かだつた讀者會

やま子

總選擧の與へた興奮が未だ消えない二月二十五日夕、六時から月例讀者懇談會が、無產政黨問題、婦人參政權問題を中心にして中々賑かに話に華が咲いて行きました。

集るもの二十二人みな職業婦人です「口惜しいつたら。投票日は男子の人たちは殆んど一日丸休み、仕事が手について居る人なんてないのですよ。それに女は、無資格なんでせう。然し、私たちもみんな碌すつぽ仕事なんかせずにしまひましたよ。

何故女に與へないんだ、と、鬱憤する人もあるし、一票なんかどちらでもいゝわ、それよりこんな日に女だけ事務机により掛つてゐなけれあならないなんて馬鹿々々しすぎるぢやないのつて調子で「投票日を公休にして賃銀全額を拂へ」といふあのスローガンに全然共鳴してゐた女の人が隨分多うございましたよ」

と、まづ電氣局のSさんが元氣のよい火蓋を切りました。あの當時は勤め先は何處でも

　無産婦人は、無産階級運動の一端を受け持つものだ。無産婦人は、無産階級運動の效を奏した時、眞に解放されるものだ。だから、この運動の爲に、全無産階級の爲に、全無産婦人の爲に、分裂に分裂を重ねた此の我が陣營を統一に導うではないか。

　その第一歩に、諸婦人同盟の提携を計うではないか。計るべきではあるまいか

　佛國大革命が、ベルサイユ宮殿に押し寄せた無産婦人の群によつて、口火を切られた樣に！　ロシヤ三日革命が、ペトログラードの勞働婦人の大示威運動に因をなした樣に！　ロシヤ十一月革命が、織維女工の大ストライキに誘發された樣に！　我々は勇敢に、戰線の統一を叫ばうではないか。戰線の統一に取りかゝらうではないか！　合同は婦人から！！

形式主義に就て

堀江かご江

　私はこの間讀賣新聞の社會面で、こんな記事を見た。東大の教授仲間が、高等學校を經ない獨學の教授は人格が出來てゐないから馘首してしまつた、今後大學の教授は全部高等學校を出てゐるものばかりにするといふことを決め、近く、殘りの獨學の教授を馘首するといふことであつた。

　私はこれを見て、勿論こんな單純な理由からとは考へないけれど、とにかくこの表面に發表されてゐる理由もウソでないとしたら、その滑稽な官僚氣風に苦笑しないではゐられない。そして今更のやうに時代錯誤の感情に驚いたのである。

選擧のはなしで仕事なんかそつちのけであつたさうです。

『惜しいことをしたわね。二月二十日の投票日に丸の内あたりで婦人參政權大演說會でも開いて、婦選なくして何の普選ぞつて大いにたきつけたら一擧にして丸の內邊の職業婦人を中心にした一大示威運動が起つたらうに、ねえ』

『全くですよ、それに私たちは、投票日公休制及び賃銀全額支拂の要求に全然贊成ですわそれにやつぱり、參政權運動はもつと大いに身を入れて眞劍に起さなくては駄目ねえ、今度つく〴〵さう思つたわ』

『然し、あんな議會運動を中心にした叩頭哀願運動だけが婦選運動だといはんばかりにのさばり返つてゐるのは癪にさわつてならないぢやないの婦人大衆が組んで、もつと大衆的な示威運動、婦人も公然に持つていゝ筈の權利を奪はれてゐる事に對する、正々堂々とした獲得の運動に火の手をあげて、支配階級に肉迫してゆく運動を起す必要がありますわ。お願み申して貰ふのぢやないんですもの長い間奪はれてゐた當然の權利をわれ〴〵は今、取戾さなければならないんだ、といふ意氣込みで掛つてゆく參政權運動がぜひ必要です』

政治界に於てさへ、普選が實現されて、その無産黨から代議士を造らうとしてゐる今日、而して、その代議士は皆無産者の味方であるのはもちろん、無産者自身なのである。いはゆる學歴といふものからいへば、立派な肩書をもつてゐるものも尠くないが、中には殆んど學歴なしの人もゐるかもわからない。そして、この普選の實現は民衆の輿論の現はれである この現象を彼の東大の教授達はいつたいどう見てゐるだらうと考へると、その官僚的の見方からいへば、彼等はきつと無産者の味方をする無産黨の代議士や、或は高等學校はおろか中學さへ出てゐない代議士に對して、彼等のいふいはゆる人格の卑しいといふ理由から擯斥するであらう。

こゝで彼等のいふ人格といふものは、學歴があれば人格が高くて、學歴がなければ人格が卑しいといふことになつてくるが。これはたいへん可笑しい話である少しの學歴も持たない人間に學校出など足もとにも追ひつかないほど立派な學者もゐれば、立派な教養をもつた立派な人格者もゐるではないか。學歴ばかり多くても無學の人間もづゐぶん多いし、教養もなく人格の劣等な人間も實に多いではないか。

學校出が偉くてさうでないものが詰らないといふ見方は、考察も判斷も持たない感情に捕はれた、官僚的の最もいけない感情である。獨學の人間ほど獨創力に富んで實力があつて、應用の才があつて、常識的でなく非凡の人間の多いのはこれまでの實例が語つてくれてゐることである。だから彼等はその威力にふだんに壓迫されるので虫が好かなかつたり、毛嫌ひしたりするのである。畑ちがひのそんな優秀な人間が自分達の畑に入つてきてゐることに神經過敏になつて、排斥問題になるのでそれは官僚的の狹量さなのである。

さうした官僚的、ブルジョアイデオロギーをもつてゐる人間の人格といふものはいつたい何を指してゐるのだらう。單に學問出身だからとて私たちは人格者と

實際の政治事情、經濟事情にくわしい×さんが丁度來合せていろ〳〵と有益な話を實例を持つて聞かせて下さつた。どれもこれも、既成政黨の惡辣、横暴、たゞ〳〵おどろく外ない事ばかりでした。

どうしても婦人は、既成政黨の欺瞞政策をはつきりと見拔かなければならないですね。英國で保守黨が、婦人の參政權を三十歳以上の者となつてゐる現行法制を二十五歳までに擴張しやうとしてゐるのですが、それも、從來の有權者だけではどうしても多數を制する見込みがなくなつたので、婦人の新有權者を澤山に作つて――婦人が二十五歳以上みな有權者になるとすると、イギリスでは、男子の總數よりも婦人の方が多くなるさうです――その投票を自分の爲に有利にするために、婦人への御機嫌とり政策としてこの婦人參政權の擴張案を出してゐると云ひます。

なほ、現在三つにも四つにも分れて同じやうな綱領を揭げて闘つてゐる婦人同盟に對して、みんな大きな不滿を披瀝し合ひました。この婦人同盟の犯した過ち――無産婦人戰線の分裂に、私たちがみんなでしなければならぬ婦人運動の發展を三年位おくらせただらうといふ事にもみな同感でした。

はいはないであらう。現代の社會制度を肯定してそこに發生する機械文明を享樂することに苦痛を感じないものは、私たちの眼からは人格者とは見ないのである人格も時代と共に動いてゆくものであるこの人格者ならざる人格者こそ現代の學校教育を受けたものほど多いのである。

　學校教育と人格、學校教育と教養、そんなものを並行するものと考へるのは愚かのことでなくてはならない。ドストヰエフスキイが好んで淫賣婦を描いてそこに偉大な女の魂を認めてゐたのは何を語つてゐるであらうか。私たちは、よく無智な勞働者や幼い子守娘の眼にかがやく人間的の魅力に打たれることがあるが、この魅力はいつたい何ものゝ現はれであらうか？――單にそれだけのことをもつて私は淫賣婦、勞働者、子守などを人格者といふのではないが、智識と人格とは常に並行するものではない。

　とにかく官僚的、ブルジョア根性をもつた人間達は、稍もすると他人を輕蔑するクセをもつてゐる。たとへば雜文を書くものが詰らなくて小說を書くものが偉いといふやうな言葉を吐いてゐるのも同じことである。雜文も小說も同じく文藝の一分野ではないだらうか。ことに雜文は該博な智識と高い見識とがなければ書けるものではない。ナニを標準にして雜文を書くものが詰らなくて小說を書くものが偉いといふのだらう。さうした人達は、たとへば今の文壇のジャーナリズムにうけのよい小說を書いてゐれば、その作家が偉くてさうでない作家が詰らないともいふであらう。昔から勝れた藝術品は、その當時のジャーナリズムには勿論のこと世人にかへりみられなかつたのが常である。眞の藝術家はジャーナリズムに媚を賣つたり或はそれに調子を合せたりすることに苦痛を感じないではゐないであらう。

　ただ表面の事實だけを見て甲が偉くて乙が偉くないなどゝいふのは、ブルジョアイデオロギーの現はれである。さうした形式本位の考へ方は時にはとんでもない悲劇さへ生んでゆく事實を私たちはよく見るのである。たとへば貞操問題などいつかある軍人の娘の若い女教師が殺された折、ある女學校が生徒に「若し暴漢に出會つた場合にどうするか」といふやうな答を集めたものが新聞に出てゐたのを見たことがあるが、「死を賭しても貞操を守る」といふのと「抵抗しきれなかつた場合には一生涯を尼になつて自分を精進する」といふ二つの答が多かつた。私は現在の學校の教育といふものが、まだ、かうした昔のまゝの貞操觀を固持してゐるのかと思つて慄然とした。

　これらは皆形式主義に生きる愚かなる人々のよい見本といふべきであらう（完）

然し、過誤を過誤として、はつきりと反省して新しい運動に入る人は尊敬すべきですが現在どちらの婦人同盟に對しても第三者の立場にあるわれ／＼も、未だきはめて初歩的な婦人の戰線を統一するために何とかする必要が起つてゐさうに思ひます。

　無產各黨の合同問題がどう開展するだろうか。

　それに次いで、婦人同盟の諸子はどう進展するだろうか。

　もし、出來る事なら、かういふ問題について堪えず私たちは、階級的な共同責任感を自分の上に負うてゐたいと思ひます。

わが職業記錄

共愛女塾便り

大坪春子

舊正月がすんでから娘さん達がぐつと殖えて、毎日八十人近くこの家に一杯になりました。みんな組合員の娘ですから責任も重いわけです。(强戸村の農民組合の主催で、農閑期三ケ月だけ、村の娘さんたちのために塾を開いたのです)總選擧で組合長の須永好氏が立候補されたとき農民の生活の現狀から、どうしても農民は農民の代表者を議會に送り出さねばならぬ、そのために今度自分が立候補するやうな事情になつた、この上は萬難を排して倒れるまで鬪ひ拔く決心だ、と一場の話をして下さいましたとき、生徒たちはみな、感激のあまり泣き伏してしまいました。娘たちでさへ、これだけ組合の事となると感激するのです。こゝの組合が日本でも一二を爭ふほどいゝ組合だと聞いてゐましたが、かういふ眞實な心の集りだからだらうと思ひます。

授業の方は、みんな從順でようございますが、何しろ小學校時代の手ほどきが餘程お座なりであつたらしく可なり骨が折れます。それに敎材が各自まち／＼ですからなほ大變です裁縫の方は今一人先生があるのですが、とにかく實際に當つてみると何事も、思つたより六ケ敷うございますね。

一週に一度宛(凡そ三時間位)家事手藝國語料理作法と、時間割をきめて、その內の國語だけを前の當村小學校長にして頂いてあと全部私の受持になつてゐます。前夜は敎案を作製するのに一骨折ります。成るべく百姓の生活に即したものをやりたいと思ひますので。

手藝は希望に依りまして先づ毛糸編物を初めました。みな珍しいので大喜びでやつてゐます。先日は生徒たちを連れて一里ばかり先きの小學校へ展覽會を見にゆきました。この塾でも、三月にやりたいと思つてゐますので、參考になる事もあらうかと考へましたからです。

私も、こんなにいゝ機會を與へられましたのを幸ひに、しつかりと勉强も研究もしたいと豫定を立てゝゐます。又私に適當な書物でもお心づきのときは御送り下さいますやう。

白衣の蔭より

豊田りん子

一月餘り病床からやうやうにはなれて、久し振りに仰いだ空はいつかすつかりと裝ひを遂えてゐました。吹く風の肌ざわりさへ一日々々となごんでゆくのが感ぜられます。

今更に自分のおろかだつたことを悔んでもそれは術ない事ではありますものの。

　母の病、貧しい家庭、老いた父……

　……樣々の想ひが樣々の形となつて、

私の身邊をつねにかけめぐつて居ます。

もうもう白衣の生活にもあきました。

何もむづかしい事は思ひません。本當に單純なそして無智な自分なのですけれど……

　人に仕えるが故に…あさましくも離れて行く心、

　一つのつとめを一人して守つて行く事のために、

　　大勢の友とつねに爭はなければならぬ寂しさ

……富んだ人、美しい人えの憧憬の瞬に、自制ない日が徒らに流れることとの愛惜しさ。

主人の偏愛のみにくさ、等々……

物乞ひの生活であつても、それが美しい希望の前の道程でしたらきつと幸福なものでありませうものを。

私は私のつとめにたゞ忠實であればそれでよいでは無いか孤獨それは寂しい物であらふけれども、その寂しさの中から又力强い何物かが、きつと導いてくれると思ふ故。でも友等の交りの中に私はいつか引つ込まれてしまひさうで、そしてそれが、自分の本心となつて仕舞そうで、私はそれが、本當に苦しい。

　弱い自制の力を、呪ひたくなる。

だが、腹を立てたとて、私にどうする術がありませう。私とても使はれのみ……貧しい故に、どの樣な忍從の生活もただ寂しい微笑によつてやがつて日は暮れて行きます。

　一月の病床から、はげしい肉體の苦痛に泣きながら、樣々の思ひに、思ひ餘つて、幾度腹を立てた事でせうか。

本當に苦しうございます。

でも、やつぱりこの苦しい、貧乏故の苦しい生活に打勝つてゆかねばなりません。あゝどうぞお力をかして下さいませ。

吾子を家に遺こしおきて

伊藤こめ子

○あと慕ふ吾兒を騙かして朝な〱行厨たづさへ家いづる我は

○阿堵物ゆゑにお初穂ほどのあしゆゑに吾兒に別れて勤する身は

○吾兒に別れをみなのすなる業すてゝをのこのすなる勤する我は

○日々にうつタイプの文字も吾兒の名の字のみは著るく我眼に映る

○砧うつ畑うつ或るはピアノうつ吾はタイプうつ吾兒にわかれて

○午時の人まばらなる事務室に吾兒思ひつゝ箸とる我は

○吾兒に乳を眞の乳をえ呑まさで牛の乳やる勤め女われは

○珠もなくこがねもなけど寶あり吾兒てふたから家に待てるあり

○吾兒を思ひ事務室の窓ゆ見わたせば我家の空に飛行機の浮く

○吾兒にすべて捧ぐべき身をことさはの公けづとめにさゝぐる我は

○吾兒や吾兒吾兒あればこそことさはの公け勤もたのしかりけり

○あしたに出でゆふべにかへり歸りては衣ときあへず先づ吾兒抱く

○吾兒負ひて公け勤めかなひなば終日とても厭はじものを

婦人界近事

府下綾瀨村堀切で、平田のぶさんを中心にしたおかみさん達の集り、第一回を雪の寒い二月十一日に開催、産業組合東京支會から活動寫眞隊が應援。去年の最終の四分の一半季に江東消費組合から買入れた總額三〇〇圓近くに對して、六圓七十錢の配當割戻しがあつたので、この利子をどうするかの相談をかれて、もつと組織的に、相互扶助出來るやうな婦人會を作る準備を進めてゐるわけである。

×

關東消費組合聯盟の婦人會では、産業組合から補助金をえて新しく第二段の活動に入る豫定を立ててゐる。全國的に、産業組合や消費組合の仕事に婦人が參加しなくては駄目だと、氣がついて來たことは遲まきながら幸甚。

新しく出來かけてゐる消費組合では、何處でもまづ家庭婦人の了解をうるために宣傳するやうになつて來た。東京では、瀧ノ川の北豐島協同組合が、目下盛んに宣傳隊を組織して準備中です。

×

普選に依る新有權者が一二五三四、三〇六これだけがみな新興の無産政黨へ投票するとしても、無産黨が絕對多數黨となつて、その政策が實現するのに容易な勢力となる筈。

ところが、蓋をあけてみると、今度の總選擧で、棄權が一割九分の二、三一二、〇六二はまことに好成績であつたけれど、黨派別に勘定すると結局無産黨は、五分一厘七毛の投票しか得られなかつたわけださうである。安部磯雄氏に依ると、社會の九割五分は無産階級だといふのであるが、さて、九割五分を占める無産者の投票の九割四分八厘三毛以上が、既成政黨に抱きこまれてしまつたわけである。（四百六十六名の新代議士中再選二五六、元代議士四一、新顏一六九、變り榮えのせぬ改選ではないか。）民衆の無知か。買收か。暴壓か。

×

婦選獲得同盟と、東京聯合婦人會で數へ上げた應援演說數を左へ。

今度の總選擧に、應援演說に出た回數三〇〇回、聽衆總人員約二十萬として、その內千三百人が婦人。

金子茂氏が六十九回、市川房枝氏が三十三回村上秀子氏二十回、竹內茂氏小林珠子氏十九回藤間あさよ氏十八回、高野壽子氏十七回、河崎なつ子氏十六回、田中芳子氏十五回　田房あい氏十五回、千本木みち子氏九回、ガントレット恒子氏六回、山田わか氏二回、八木橋紀伊、吉岡彌生氏各一回。

無産黨へ應援に行つた人は、誰も回數をおぼえてゐないが、奧むめお氏は思ひ出して二十五六回位かしらと云つてゐるし、大坪春子氏は三十回ほど、農民組合の須永氏のために壇上に立つた、と知らせがあつた。

×

ます／＼女も男も婚期がおくれてゆく。最近の統計によると、昔は二十歲前後、女でも十三歲位で丸髷を結たものだが、だん／＼社會生活の複雜さが增し、それに一つは人智の進步も手傳つて結婚期が次第におくれ、明治三十二年代には平均男が二十七歲、女は二十二・三歲といふ風になり、大正十二年には更に遲れて男二十八、女二十三となつたが極く最近では男二十九に女二十四といふ晩婚の數字を見せて來た。尤も財界の好況不振にも大いに關係はあるが一體に敎育程度が高くなると、勢ひ年が進むやうになるは是非ないことである。

頁數に狂ひが出たので本欄のつゞき一頁は、餘に次號廻し。

無產階級と婦人

――つゝしんで山川菊榮女史にたてまつる

高群逸枝

山川菊榮樣　御病氣はいかゞですか。私もまた、あなたとほゞ同じ病氣の持主であるところから、けふのやうな寒い日には、何は兎もあれ御機嫌いかゞと案じられます。

かういふ溫情な私に比べて、あなたは何と無情なお方でせう。あなたは私の論文に對して批評する興味がないと申されます。よしやそれが批評し能はぬといふ意味ではあつても。

山川菊榮樣　どんな小さなこと、つまらないことでも、いやしくも共產主義者なら、社會意識のあらゆる斷面に下りて行つて、その一つ一つを共產主義にまで克服しなければならない、とあなた方のレーニンは申しましたとやら。

まして私の論文は、あなたやあなた方にとつて、決して小さい意味のものでもなければ、つまらない意味のものでもない。

あなた方は口癖のやうに仰しやる。ひとり集産共產社會のみが婦人を解放すると。どんな風に解放するかとお訊れして見ると、小兒保育の社會化といふことを、第一に申される。そこで私は、その小兒保育の社會化といふことは、婦人の慾求に反してゐる。婦人は子供を父親のものとも、社會のものとも見ることを好まない。すべて小鳥は母鳥のそばにゐる。あのやうに母性の本能といふものは自然的な本能であるのだから、母と子とを一つにしたまゝを、その自然的な狀態のまゝを承認し、擁護するやうな社會でなくては、婦人は解放されたとはいはれない。一口にいつて見れば、子供は母親のものとして、母親の家にゐるものとして認められる自然的な制度の社會、丁度原始の世に見られるあの自由な自然な制度の社會でなくては、婦人は本當には解放されない。この意味から婦人はいはゆる科學的な社會を排斥する。そして自然的な、自由社會を慾求する。

かういふ婦人の慾求を理解せず、まるでそれには無智であるところから、さもお手柄のやうに、小兒保育の社會化といふことが、婦人解放の何よりの一つの證據だといつてゐるのは、私共には可笑しくも腹

立たしくも聞える。まるで以當違ひたといふ氣がする。

さういふ社會は、なるほど現代の資本主義社會よりはましだらう。現代では婦人はその愛兒を放棄してまでも、生活のために辛らい苦しい勞働をしなくてはならない。現代の婦人には、子供は足手まとひでもあらうし、それに母親としての愛情からいつても、子供をさうしておくことは、どんなにか氣がゝりなことでもあるだらう。そこで社會が引きとつて立派に育てゝくれるといふのなら、實にそれはありがたいことだ、けれど、けれど、それにもまして、もし子供と自分とが、春の野に遊ぶ小鳥と母鳥のやうに、自然的に、共に樂しく生活することができるなら、これに越したことはない。

この意味において、集權共産社會は、婦人にとつては改良主義的な社會ではあり得ても、解放の社會ではあり得ない。

山川菊榮樣　私のあの論文は、かういふ意味のものでありました。私はあなたやあなた方が、婦人をすつかり解放することのできる社會は、ひとりあなた方の集權共産社會をおいて外にはないと口癖のやうに云つてゐられるのに對して、婦人としての立場から、見のがしておくわけに行かなかつたのです。で、あなたは今日でも――私が婦人の立場から抗議しました今日でも、まだ婦人をすつかり解放するのは、あなた方の社會であるといふことを、仰しやりになる御勇氣がおありですか。私は何よりこれに對するお答へが伺ひたい。ひとり私のみでなく、婦人のすべてがそれを伺ひたいと思つてゐる。

おゝ私がもしコンミユニストであるならば、わが國におけるコンミユニズム婦人としてのあなたが、何故かうした一般婦人大衆の婦人意識にまで下りてきて、それを仔細に、一つ一つ克服しないかといふことで、あなたの無責任と無力とを彈劾したでありませう。

山川菊榮樣　ですけれど、遺憾ながらコンミユニストでない私としては、唯、今後ともあらゆる場所、汎ゆる機會を捉へて、婦人と無産者とに對するあなた方コンミユニストの欺瞞政策及びその無智を曝露して行くつもりですから、あらかじめ御承知置きください。

既に婦人に對して無智であるあなた方が、無産者に對してのみ有識なわけはありません。あなたも仰しやるやうに、婦人と無産者とは、その利害の關係を、全く一つにしてゐるもので、それは二であつて而も一なのですもの。

山川菊榮樣　だのにあなたのあの論文は何でありましたらう。第三インターの走狗としての固定的な立場から、わが國の婦人と無産者を胃瀆し、甘く見、それを無自覺のまゝ、その利害の如何に拘はらず、たゞに組織化さうと焦つてゐられることを、明瞭に曝露してゐるほかの何ものでもなかつたではありませんか。

問う。何のための組織ですか。無産者と婦人とのための組織ですかいいえ、それこそは第三インターを支配する少數知識階級のための組織であるではありませんか。

山川菊榮樣　一九〇六年に佛國の勞働總聯盟が、アミアン市に開いた大會に於て、かの有名なアミアン綱領を發布して以來、無産者自治の聲は年と共に高まつてきました。世界の無産者は齊しく叫びました。「指導者てふ名のもとに我等を支配しようとする奸惡なる知識階級を葬むれ。我等の解放は我等自身がする。」

彼等知識階級こそは、資本家に代つて無産者を支配し劫掠

しようと密かにその爪を磨いでゐる狼である。筋肉勞働者本位の社會を約束する。けれど今や世界の無産者は叫ぶ、否。われらは、筋肉勞働者本位なる社會を望まない。われらは唯筋肉勞働者のみの社會を要求する。

「筋肉勞働者のみの社會へ！」

この新しい標語、この素晴らしい標語こそは、無産者の要求の一切である。

この世が筋肉勞働者のみの世になつたなら、そこでは男も女も皆が皆、生産勞働者であるから、煩瑣な政治樣式や、大がかりな組織は解體して、自然的な自治社會が出現する。それは自由な聯合共産社會である。

事實、今日でも、專ら野良で働いてゐる百姓やその他の勞働者、即ち眞の獨立人、眞の生産者であるところの自治者にとつては、政治家とか、大將とか、殿樣とかのお世話にならなくても、十分に生きて行けるし、生産者同志、自治者同志が、お互ひに力を協せ、助け合ひ、話し合つてさへ行けば、何も中央集權の力を借る必要はない。そこで、

「筋肉勞働者のみの社會へ！」

と世界の無産者は齊しく聲を合せて叫んでゐる。だのに、今、指導者てふ名のもとに出現してゐる少數の主義者等は、この「筋肉勞働者のみの社會へ！」といふ聲を蛇蝎のやうに嫌つてゐる。そして彼等はいふ。

「筋肉勞働者本位の社會へ！」

かういつて、彼等は否が應でも、中央集權の組織を維持して行かうとする。

それは何故であるかといふと、さういふ社會でなくては、資本家とか、大將とか、殿樣とか、知識階級とかいふ非生産者の群の巣喰う場所がないからである。たゞに巣喰うのみでなく、事實上においては、無産者の上に君臨して、その社會の中央部における最も派手な地位、有名な花やかな役割を受持つことができるのである。

レーニンといへば、無産者の神樣のやうに崇められ、レーニングラードなど、首都の名にさへ謳はれてゐるほどであるが、はたしてレーニンが偉いか。それともレーニンを支持した無産大衆が偉いか。私は思ふ。無産大衆こそ神樣ではないかと。そこで、無産大衆のみが本當に神樣であるとするならば、一個のレーニンの名前のごときは、無産大衆の中に沒入して然るべきではないか。

ローマの七つの丘の時代、あの聯合政治の時代にも、民衆の中には、ずいぶんと偉い知慧者もゐたであらう。けれど、それにも拘はらず、その名前は、完全に民衆の中に沒入してゐる。そして民衆の力の總和のみが尊いとされてゐる。

それは何故であるかといふと、その時代の社會組織が、本當に民衆の社會組織であつたからで、それに反して、中央集權の社會では、その中央部に巣喰う者の名前だけが、實力以上にまで光り輝く仕組みになつてゐるのだ。

藝術方面のことにしてもさうである。今日でも、民衆の中には、どの位隱れた天才が潜んでゐるか分らないが、社會は決してそれを認めない。もし社會に認められようと思ふならその人は中央文壇へ乘り込んでこなくてはならない。またその人が勞働者であつてはならない。勞働者としての足を洗つて、全くの非生産者となり、いはゆる「藝術家」てふ一種高尙な專門人の群の中に入つてこなくてはその名は認められない。

非生産者でありさへすれば——即ち專門人でありさへすれば、そして中央部に出さへすれば、どんな貧弱な才能しかもたない者でも、その才能の十倍も二十倍も有名になることができるし、この社會の藝術は俺が代表してゐるぞといふかのやうに偉くなることができる。何といふ間違つた仕組みの世の中だらう。

民謡とか、村芝居とか、盆踊りとかの中には、非常にすぐれた詩人や舞踊家が潜んでゐる。けれど、丁度七つの丘の時代の知慧者の名前が民衆の中に沒入してゐるそれのやうに、かういふ詩人や舞踊家の名前は、民衆の中に沒入してゐる。そこでは政治といふものは、個人の名前を輝やかすためのものではなく、本當に民衆の幸福のためのものと解されてゐるし、藝術とても個人の名前を光らかすことよりは、民衆がそれによつて共に樂しむためのものと解されてゐる。だからその名が光らなくても一向に差し支へがない。政治の本當の意味は、かうした「民衆の政治」でなくてはならない。藝術の本當の意味は、かうした「民衆の藝術」でなくてはならない

そこで、かうした本當な政治、本當な藝術を、十分に生かすためには、その社會が質においては「勞働者のみの社會」「生産者のみの社會」、「自治者のみの社會」であらねばならないし、樣式においては「聯合社會」でなくてはならない。

中央集權社會は、中央部に巣喰う非生産者の政治、非自治

者の藝術をのみ、その社會の代表的なものとして擁護する。
見よ、さういふ社會にあつて、政治專門の知識階級が、この社會は俺達が代表してゐるといふかのやうに花やかな名前を連ねるのを。また、同じく藝術專門の知識階級の群は、天才はひと　俺達少數者だといつてゐるかのやうであるのを。

兎もあれ中央集權の社會は、民衆の社會ではあり得ない。社會が中央集權の樣式を維持する限り、封建主義の社會の中央部には少數の殿樣階級、資本主義の社會の中央部には少數の資本家階級、なほまた社會主義の社會の中央部には少數の知識階級といふやうに、いつになつても下で働らく人民は、それらの少數の野心家どもの踏臺になるばかりだ。

おゝ、この世が勞働者のみの世になつて、政治家とか、殿樣とか、大將とか、藝術家とかいふ社會的寄生者の群が消えうせたなら、どんなにかサッパリすることだらう。皆が皆勞働者のみになつたなら、どんなにか明るくなることだらう。

自ら井を掘つて飲み、自ら物を作つて食うことのできる自治者の群の社會誰からも頭を制へつけられぬ社會、誰の踏臺にもならなくてい〻社會、そして唯、相互扶助と、協力とのみの社會、さういふ社會こそ我等の社會だ。

「筋肉勞働者のみの社會へ！」

いまや此の標語は、自覺した無產者の世界的な標語になつてゐる。第三インターの少數の主義者達だけが、それを嫌つて、無理矢理に自分達少數者本位の社會を、大衆の無自覺に乘じて、組織しようと焦つてゐる。

すべての婦人よ。そして無產者よ、記憶せよ！　われらの社會は「聯合共產社會」であることを。そして彼等の社會は「集權共產社會」であることを。

なるほど彼等の社會は、今日の集權資本社會よりはましであらう。けれど同じやうに集權社會である限り、それは改良主義的ではあり得ても、解放の社會ではあり得ない。無產者は解放されない。

山川菊榮樣　かうなると、あなたはたゞ、唯物史觀の信奉者として「だが、この集權資本社會から、集權共產社會への推移は、絕對的に決定せられてあることだ。それは社會の必然的な進化過程だ。」と仰しやりになるでせう。「たとへ婦人や無產者に對して、來るべき新社會が、少々の矛盾を含み、不合理を孕んでゐるとしても、それは仕方がない。必然的に、絕對的に、我々の社會はそこをさして進んでゐるのだから、人間の理想や咏嘆ぐらいでは、この自然の嚴肅な推移、この偉力に打ち克つことはできない」と。

よろしい。それなら私も暫らくその筆法、ヘーゲル流の辯證法的並

法で論じませう。その前に御反省を願ひたいことは、マルクスはその唯物史觀を、何によつて組立てたかといふことです。彼は彼の公式を何によつて發明したか。何に基づいて直觀され、見究はめられたものでそれはあるか。その答へ。それは前世紀の、そして都會を中心としての社會事情によつて直觀され、見究められ、發明され、組立てられたゝのである。

もしさうであるならば、はたしてそれが神樣の仰せのやうにも、正確であるといふことが云へるだらうか。その答へ。それは云へない。云へないのみか、現世紀は現世紀による直觀、見究め、發明、組立てを要求する。そしてそれは寧ろ地方を中心としての社會事情によるものでなくてはならない。なぜなら資本主義末期の現世紀の主な特徴は中央部の頽廢と地方の擡頭を意味してゐるからだ。

今や集中から分散へといふことは、近代社會の否みがたい一大趨勢である。すべての文明の利器、或は機關の地方分散の狀態と、特にその基礎としての產業分散は注目さるべきことがらである。

たとへば、水力電氣の利用は、それによる村落工業の開始となり、村落工業の開始は村落自治の一つの基礎づけをするかくて今やそれが、はつきりと一つの形になつて現はれてきた。といふのは「農民自治」の叫びとなつて、農民達の中に意識化されてきた。彼等は現に、埼玉から長野、或はまた全地方に亘つて、猛烈な新運動を起してゐる。かくてもはや時間の問題となつてきた。晩かれ早かれすべての農村は、この新運動への必然的過程を辿つてゐる。

此の間も、中國地方のある年老いた農夫から、もはや自然發生的に、草地や山林の村落共有や、延いては農耕地の共有などゝいふことが計畫せられつゝあるといふ話をきいた。即ち、社會のどん底にまで陷とし込まれた農民達は、今や共產村落、村落自治の方法によつて、その生命を盛り返へさうとしてゐるのである。

見よ。これは恐ろしいことではないか。もし農民達が、さうした徹底的な自治社會を築いて行つたなら、それが社會に及ぼす影響はどうなるだらう。今まで農村といふ農村にむかつて、恐ろしい吸盤をもつて血の管を放ち、その管によつて生血を吸うて太つてゐた中央集權の資本主義の社會が、農村自治のためにその管を排斥されては、もはや中央集權の資本主義の生命は、次第に見すぼらしく、次第に影淡く細り行くのみだ。

おゝ、そしてその結果はどうなるか、一口にいつて見れば農村自治社會の生長は、必然的にすべての中央集權的な組織や制度や法律を廢止する。財產制も、家族制も、結婚制も、

すべては穏やかに廢止されてしまふ。いふまでもたく都會も

この都會が廢止されるといふ一事は、ことに地方人にとつての喜びである。自分達が汗みづたらして働いてゐるとき、自分達から搾り上げた金を遠い處へもつて行つて、立派な道や、花やかな建物や、面白い芝居や、素晴らしい文化機關などで、一つ處を飾り立てゝゐるが、それが遠い田舍にとつて何になる。「徹底的な機會均等の世へ！」これが大衆の願ひである。おゝこの願ひ、それは今や單なる願ひではなくなつたそれは社會の必然的な進化過程、即ち村落の共産化によつて具體化されつゝある。

かくて、それが全く具體化されてしまひ、古い社會の殼が落ち切つてしまつたとき、そこに見渡される新社會は、どんな樣式のものだらうか。それこそは「聯合共産社會」だ。それこそは「民衆の社會」だ。それこそは「勞働者のみの社會」だ。

即ち、此の現代の集權資本社會の次に登場する社會は、明らかに、必然的に、「聯合共産社會」である。「我等の社會」である。

山川菊榮様　唯物史觀の信奉者としてのあなた方は、この現代の資本主義社會の次にくる社會は、集權共産社會であると云つてゐられる。然し、それは一個の妄想であり、幻影でしかなかつた。私は敢へてそれを空想社會主義と名づけませう。

ああ、かつて無政府主義者によつて、空想的でゝもあるかのやうに漠然と叫ばれた「自由聯合の社會へ！」の聲は、今となつては絶對的なものになつてきた。たとへ無政府主義者がさう叫ばなくても、また無産者や婦人が口々に喚かなくても、くるものは絶對的にくる。社會は絶對的に、必然的に、無産者自治の世へ、協力と聯合の世へと、嚴肅な歩みを續けてゐる。唯物史觀は都會から直觀されたけれど、社會の黎明は地方から、太陽は今や地方の空から昇る。

かくて都會における勞働運動は、都會を、中央部を、資本主義の根城を破壞する使命をもつものとしてのみ理解されてくる。そしてそれがもつ偉大な破壞的使命こそは、特に勞働者の總同盟罷工主義的組合運動によつてのみ促進される。

かくて都會にあつて幾多の鬪爭が行はれ、その結果中央部が荒廢に歸した頃には、もはや新社會は地方の手によつて、徐々と建設せられてゐる。破壞の使命を果した都會のプロ

レタリアは、おのが故郷へ、地方へと分散しなければならない。社會は必然的に、かくも見事な戰ひの手段を、そして合理的な建設の手段をもつ。

　山川菊榮樣　あなたやあなた方の見當違ひの方面から、新社會は登場しつゝあるのです。で、あなたやあなた方が、新社會への過程としての重大な意味をおいてお考へになつてゐる政治運動の如きは、泡沫にも等しいものでしかありませんいまにあなた方は、御自分の主義や野心に幻滅なさらねばならないでせう。

　あなたは左翼分裂主義者が、第三インターの精神にそむいて、婦人の性別的團體をこしらへたといつて嘆いてゐられるけれど、左翼分裂主義者達は、一般婦人大衆へ働きかけようがために、その知慧を、いみじくもあゝした風に使つたものであるかも知れない。特殊から一般へ、階級から普遍へ、婦人に對してだけは、否が應でもさうならざるを得ない。それが議會政治の婦人に對する約束だ。いまに政綱なども、もつとずつと婦人意識の中での小ブルジョア的分子を對象に書きかへられていくだらう。たとへば一切の消費經濟に關する件とか、一般的な母子扶助法とか、家事審判に關する制度とかかういつたやうな家庭婦人を對象のものになつていくだらう

　然し、いまはさういふことはどうでもよい。私の興味は、寧ろ第三インターの精神が、わが國における資本主義政治の性質に對して、どういふ風に矛盾して行き、そして振り落とされて行くかといふことにある。こゝ何年かの後には、資本主義政治の性質に順應することによつて、第三インターの規範の外へ脱出する我國無產黨の姿が見られよう。

　日本農民黨や社會民衆黨は、今日でも第三インターの規範の外にあるが故に、反動團體であり、非無產黨であると宣傳されてゐたけれど、いよ〳〵實戰期に入つた今日では、さういふ批難は全く稀薄になつた感がある。實戰に實戰を重ねていくうちには、いつか知ら抽象的な無產意識から脱出して、わが國の資本主義政治に順應した一個の民衆黨となつて落ちつくに違ひはない。

　その時、あなた方コンミユニストはどうおなりでせうね。ドイツでのやうに、一般大衆の政治團體からボイコツトされてまでも、なほ孤立しながら議會に食ひさがつて行かれるだらうか、それともイギリスでのやうに絕えず排斥されながらも、なほ無產黨に食ひついてゐようとなさるだらうか。

あなた方の一味は、さうまでして政治に食ひさがられる。中央部の椅子をさうまでしてねらはれる。驚嘆すべき野心か、それとも偉大な妄想か、でなかつたなら、ロシヤを背景にしてゐるからか。恐らく後者であるに違ひない。

だが、そのロシヤが、やがてはまた、愈々益々反動化して行つて、遂に全世界の無産大衆の前に、その主義の無力を曝露するであらう。その時勞働問題、農民問題、ならびに婦人問題がロシヤの社會には再びよみがへるであらう。

山川菊榮様　レーニンはロシヤこそ婦人を解放したと叫びました。ですけれど私は思ひました。巴里コンミユンを見よ戰後のハンガリーを見よ。觀念的な一時的な解放は、寧ろどさくさ紛れの無秩序にしか過ぎない。それは決して正しい解放とはいはれないと。

此の間、ロシヤのことを専問に研究してゐる或る知人とロシヤの婦人問題について話しました。その人は申しました。ロシヤは婦人に對して親切である。今やすべて子供はその父親が、即ち男が扶養することになつてゐる。これなども婦人の立場を擁護する一つの例だと。

當初ロシヤでは、子供は男女が共同に扶養する規則だつたそれが今では、男が扶養することになつたわけで、一寸考へて見ると、これはいかにも婦人の負擔を輕くしたものであるやうだけれど、その實さうではない。實に婦人を束縛する第一歩が此處から踏み出されることになるのだ。

さてその人は續けていふ。ロシヤは斯く婦人に對して親切であるが、それは更らに「戀愛の自由」がどんなにまで認められてゐるかといふ事を見てもわかる。

ルナチヤルスキーの如きは、カメネフの夫人と關係してゐるといふが、而もそれがそれで通つてゐる。誰も批難しないかういふ處に新ロシヤらしさがある。即ちこれは最早や一つの性道徳の革新であらう。これが日本なら、一國の文部大臣が他人の妻と姦通してゐるなどゝいふことは、到底許されることではあるまい。多少の過渡期的な分子もあるかも知れないけれど、兎に角一つの革新された性道徳、即ち戀愛の自由の一つの現はれと見ねばならない。

ですけれど、かういふ話をきいてゐるうちに私は思ひました。カメネフの夫人が石女であつたなら問題はない。だが、もしさうでなかつた場合には、いつたいどうなるだらう。夫人が子供を生む。それはルナチヤルスキーの子供かも知れな

い。けれど確かにそれだといふ證據はない。そこで、持續的な性の管理者としての、夫カメネフ氏が、結局それを背負ひ込むことになるだらう。とすればカメネフ氏の立場は有がたいものではない。妻が姦通する。觀念的にはそれを認めてもその結果、いつ他人の子供を自分の子供として背負ひ込まされ、更にそれを扶養させられてまでゐるか分らない。

兎もあれかうした戀愛の自由は有がたくない。で、かうした戀愛の自由が、段々とロシヤの社會にひろがり、それが新しい一つの性道德であるとされ、婦人解放の一つの例であると見做されるやうになつた曉には、きつと夫達の間から猛烈な抗議が提出されるだらう。そして、

「妻たる女は姦通してはならない」

といふことになるに違ひない。すべての道德と法律とは、必要と實際との中から生れる。かくて妻の姦通といふことがやがて再び忌むべき不道德であるとされるやうになるだらうそこで現ロシヤにおける、いはゆる革新された性道德なるものは、實は反動時代にあるロシヤの抽象的な、泡沫現象に過ぎなかつたのだ。もう十年もさきなら、ルナチャルスキーは復活した舊性道德によつて排擊されたらう。幸ひにも、どさくさ紛れの現ロシヤはまだ性道德をもたないからよかつた。

子供の扶養の義務を父親に負擔せしめねばならなくなつてきたといふことが、既に婦人問題への第一步である。そのことはやがて自由な戀愛、並びに自由な結婚や離婚――レーニンが世界にむかつて誇つた――の制度を廢止するだらう。戀愛は不自由になり、結婚や離婚は、再び資本主義社會に見るやうに固定するだらう。何となれば、自由な結婚や離婚は、子供とその扶養者との關係を複雜なものにする。

現にロシヤでは、扶養に關することで、非常に多くの訴訟が提起されるといふことであるが、結婚や離婚の自由を、觀念的に解決してゐるロシヤでは、この現象はあまりにも當然であるといはねばなるまい。

そこで現ロシヤの此の亂雜な狀態は、必然的に何等かの法律となり、道德となつて、秩序づけられなくてはならない。既に男性に扶養の義務を背負はせたことが、逆戻りの第一步であるのだから、今後は一つ一つ、ずる〳〵と逆戻りして行くだらう。

山川菊榮樣　私はかういふ見地から、中央集權の政治樣式は、資本主義社會をもつて終るものと考へてゐるのです。私

はあなた方のやうに、政治運動を新社會への必然の過程だなどとは夢にも思はない。中央集權の政治は、資本主義社會の終熄と共に終熄する。それは腐敗と墮落と頽廢とへ加速度的に傾いて行つて絶滅する。

かういふ性質と運命をもつ政治に對して、重大な本質的な夢がもてようか。飛んでもない。

そこで私が專ら申してゐます婦人非政黨の運動のごときはいふまでもなく婦人運動の全般から見るときは、ほんの一部分の、一時の、當面の手段にしか過ぎない。そしてそれも本質的には政治否定の一形式としての運動である。

で、既にかく婦人の對政治運動を、たゞに當面の利益を獲得するものとしてのみ解する立場にある私としては、該運動においては、全婦人の勢力の合同といふことが何よりと考へられるのです。ブルジョア婦人もプロレタリア婦人もない。現實的に、然り最も現實的に、大同團結して事を運んで行かねばならない。

山川菊榮樣　あなたは性別運動などゝ仰しやつて、それはブルジョア婦人特有のものだとなさつてゐられるけれど、私は申しませう。ブルジョア婦人もなければプロレタリア婦人もない。すべては「婦人」である。私はブルジョア婦人なるものゝ存在を認めない。さういふ常識的な見方を否定する。だからブルジョア婦人運動なるものを認めない。よしさういふ風なものがあるとしても、私はそれを婦人運動として認めない。

婦人運動はたつた一つしかあるべきでない。その外のものは、エセ婦人運動だ。婦人運動は、今や無產運動の中に沒入してゐる。その中に深い根をもち、その中に溶け去つてゐるすべての婦人は、このことを認識しなくてはならない。勞働者と農民との經濟的、並びに自治的運動こそ、卽ち婦人運動の基礎としてのものである。今や無產運動は卽ち婦人運動であり、婦人運動は卽ち無產運動である。

婦人の政治運動のごときは、ほんの低い意味での、當面の一つの手段に外ならない。

繰り返していふ、婦人運動は一つしかない。それは場所によつて、或は農民運動となり、或は勞働運動となるであらうし、また機會によつて政治運動となるであらうけれど、その根抵はたゞ一つのものである。それは何であるか、「筋肉勞働者のみの社會」を目ざす無產運動である。かういふ意味の、そしてたゞ一つの無產運動こそ、婦人運動の基礎としてのものである。

烙印されたる苦艱（三）

（婦人革命家の一生）

ヴェラ・フィグネル手記
大竹せい抄譯

その時私は二十一歳であつた。

この初期の規約は殆んどそのまゝインタナショナルの各部のコツピーにしか過ぎなかつた。ロシアの實際に當てはまるやうに考慮された點は少しも見えずに、出來合ひの西歐の公式が、そのまゝにロシアへ移植されたものであつた。七十年代の初期に考へられてゐた誤謬が、そのまゝにくり返へされてゐた。

我々は全部で十二人の女學生の集團であつた。けれども、我々のほかに澤山の、同じやうな目的を持つ團體があるといふことを知つた。そして仕事の範圍が、非常に廣くひろがつてゐることを信じられるやうになつた。

その夏、雜誌『フペリヨド』(すゝめ)が發刊された。この雜誌は非常なセンセーションを起し、それを中心としていろ／＼な論爭問題が起つた。

チューリッヒ引き揚げ命令の後に、我々の團員のうちの一人エウゲニヤ・スボーテイナはロシアへ歸つた、五人はパリへ、そのうちには妹のリヂヤ・フイグネルも加はつてゐた。リユバートヴイチ、カメンスカヤ、それから私、そのほか數人はベルンの大學へ入つた。

やがてベルンへ、トカチョフが、ロシアにある『十人組』革命團の代表としてやつて來て、我々の團體にその聯合へ加はることを申込んだ。

當時、我々はほかの靑年社會主義者の大多數と同じやうに聯合主義組織に同情をもつてゐた。そしてインタナショナル

の論爭で、中央集權主義と聯合主義とに分裂した、そのバクニン派に同情をもつてゐた。といふのは一般にバクニン個人の魅惑からでもあつた。

それから、やがて我々のパリ派は、コーカサス人の團體と一緒になつた。その中にはチヤバダーリ、チコイゼ、チチアノフ等が參加してゐた。やゝ後に妹のリヂヤとナデジダ・スボーチナ女史は活動するために、ロシアへ行き、その他の者は當時セルヴイアと連絡をもつてゐた革命家、フエセンコと合併した。

その頃我々は、インタナショナルの見地にたつてゐたのでこの連絡を利用して誰か黨員の中からセルヴイアへ代表者を送つて、宣傳のために社會主義的な新聞を同地で組織する事を決議した。そこで代表者として私が選まれた。その頃私は夫が既にロシアへ歸つて、カザンの地方裁判官になつてゐたので殆んど自由の身であつた。が、私はセルヴイア語をちつとも知らなかつたので、どうしてゼルヴイアで働かうかが分らない。その役目を許して貰ふやうに賴んで、結局その後セルヴイアからまつすぐロシアへ行つたマリア・スボーチナ女史が、その仕事に當ることになつた。

學年の終りぢかくになつて、更に六人が大學を棄てゝ活動するために、ロシアへ歸つて行つた。だが、私はなほ決心し兼ねてゐた。まだ絕ち切られてゐない家庭の關係と、學課を終りたい希望とが私を束縛してゐた。妹のリヂヤが大學を途中で棄てたのを非常に怒つてゐた母は、しきりに私がそれをしない樣に賴んでゐたからである。

生活の敎訓

その頃、ロシアでは社會主義團體に對する彈壓がはじまつた。そして多くの亡命者が次から次へと、西歐へ流れて來たヂユネーヴの街上で、彼等の多くと私は行き逢つた。或る者はチユウリツヒで一緒に學んで知り合ひの仲であつた。例へば、ニコライチエブネフと彼の妻などがさうであつた。その他チユバロフ、マローゾフ、サブリンその他多くの革命家と近づきになつた。そして私はこれらの中の或る人々に金錢上の援助もすることになつた。そのほか、自分の生活を切り詰めて、ベルリンやロンドンに居るロシア人達にも多少の援助をしなければならなかつた。さういふことが自然に私の名をだん〳〵亡命者の間に擴げて行き、ちかづきを多くして行つ

た。

　チユネーヴの亡命者の中で、一番古る顔であつた小說家でネチヤエフ派のトツカチヨフと、彼の妻が住んでゐた、彼等は一八七二年の裁判事件に連座した人々であつた。我々若い連中はネチヤエフの個人にも亦手段にも反對であつた、彼の理論――目的は手段を選ばず――は我々には首肯の出來ないものであつた。そういふ手段を主張してゐた革命家としてのトツカチヨフに對しては、やはり反對であつたが、彼は愉快なそして有益な非常に活氣のある話相手であつた、だから私はしば／＼彼等の所へ出かけて行つた。

　大學の中では私は笑ひ上戸であつた。どんなことにでも私は怒らずにすんだ。一八七四年の夏に、デユネーヴの我々の仲間へ、五十歳前後の人物、フアレツキー中佐が現れた。彼はみんなに對して、一人一人にロシアで亡命者援助の團體を組織するために、その規約を持つてラヴロフと交涉しに外國へ來たと言ひふらした。彼がもう故國へ歸る時期が近づいて來ると、彼はまた逢ふ人每に心配そうに、警察が彼の任務を嗅ぎつけはしないか、國境で捕縛されやしないかと、不安そうに言つた、彼が臆病ものだと知つた私とトツカチヨフは、彼をだましてやらうと考へついた。私達は無名の手紙を送つて――フアレツキーに危險だといふこと、國境でつかまるだらう。詳細はヂヤンヂヤツク・ルツソー島で彼が逢ふであらうところの婦人が、彼に知らせるであらう。その婦人は、青いヴエールを顏にかけて公園のベンチに腰をかけてゐる――と書いた。それから有名な作家ニコラゼの妹をその婦人に仕立てゝ、ルツソー島のその場所へやつて、フアレツキー中佐が來たら、彼女の知り合ひで警察の外事部に勤めて居るものゝ話に、その外事部にはフアレツキーがロシアへ歸る途中捕縛される筈だといふ報告があつた、と、話すやうにうち合せをし、私達はソツと彼の留守を見はからつて、彼の部屋の中へその手紙を殘して行つた。それからが大騷ぎになつた。中佐はうちへ歸ると、その手紙を見て早速ルツソー島へ出かけたニセ貴婦人はみごとに役をやつてのけた。中佐は、まつたく絕望に陷つた。彼はみんなの所をそこらぢう走り廻つてこの事を知らせ、頭髮を摑んで、この不幸をなげいた。彼の恩給受取りの期限までは、三ケ月しきや殘つてゐなかつた。そこでとう／＼彼は恩給を棒にふることになり、ロシアへ歸ることも出來ず、年をとつて一文なしで亡命の身となり、不幸

な生活をせねばならなかつた。それから、かなりの時を經てこの事件が、私達のやつた惡戯だとわかつた時、私はファレツキーのところへ出掛けて行つた。私はその時、彼が自分の臆病を知られたといふ自覺から、それは氣の毒なほど恥ぢてゐたのを見て、いたましくまた恥づかしくさへなつた。彼は無雜作に私を赦してくれたが、それ以來私はもうかうした人を弄ぶ冗談を、心から悔いた。

ロシアへの出發

その時、ロシアでは私達の團體は全力を以て活動を初めたその團體は「五十人裁判」の記錄として殘つてゐるやうな、しつかりした計畫を作りあげてゐた。團員は實際は二十人か二十五人を出てはゐなかつた。團體に所屬する機關紙として「勞働者」が外國で發行されてゐた、團體はその活動の範圍を工場勞働者と農民の間に定めて××の宣傳をすることになつてゐた、團員は各地の工場中心地へ配置された。一八七五年の秋にこの團體は、多くの勞働者と共に檢擧されて投獄された。が、その後も殘つた人々はその仕事をつゞけて行つた

そこで彼等は「一人のために凡ての者、そして凡てのために各自」といふ宣誓を與へた團員が外國にあることを想ひ出した。私とドロテア・アプチエクマン、マルク・ナタンソンに團體の仕事を助けるために、モスクワへ來るやうにといふ事が傳へられた。卒業まで約半年のこつてゐた、その頃までに私は、夫に對して學資の援助を斷り、一切の關係を絕つといふ手紙を送つてあつた。が、母は、私が學業を了へ輝かしい日を迎へて故國へ歸るのを、知人や親戚に誇らしげに吹聽して待つてゐた！　私は自分の手でそれを打ち毀さねばならない。私はいろ〳〵と思ひめぐらしてみた。友達は仕事に身を捧げて、少しも自分のエゴイズムや自分の滿足に心をゆづらずに、重い苦しい監獄にまで行つてゐる。いま醫師としての學問が人々にとつて必要なのか、それとも、もつと大きな仕事のために我々が今まで社會で學んだことが必要なのか。故國の樣子をよく知つてゐる者が、私を必要だと云つてゐる、そうだ、いま特に私が必要なのだ。私はいままで自分を鍛えたその仕ごとのために役に立たう——私は、私の言葉が實行に背かないために、ロシアへ行く決心をした。私の決心はしつかりと熟慮した後についたのである。だからその後、一度も私は悔をもつてうしろをふり向いた事はなかつた。一八七

五年の十二月に私は明るい、追憶を懷きながらスキッツルを出發した。

私がロシアへ歸つた時、母はリヂヤが捕縛された事から、ひどく害した健康を恢復するために、スキッツルへ出かけやうとしてゐた。私は通知をしないでフイに歸つて、ペテルブルグでやつと彼女に逢ふことが出來た。この新しい打擊が、彼女にとつていかに苦しいものであつたかは、言葉のほかである。

母がペテルブルグを去つてから私は、擊滅された團體の中心があつたモスクワへ行つた、警察の注意を避けるめに、私はモスクワの警察の留置所にゐたリヂヤとの面會は、わざと避けてゐた。私は妹のために歸つて來たのではなくて、社會事業のために歸つて來たのだといふ信念で一杯であつたのでそうした悲しみは間もなく私から消行去つた、が、非常に悲しい幻滅が私を待つてゐた。私と一緒にこの仕事に引入れられてゐた同志達は、ばら／＼な統一のないグループを作つて規律もなく、活動の一般的計畫もなく、その上彼等のうちのいゝ連中は既に捕縛されてゐた。團體をとりまいてゐた若い連中は、何の智識も準備もなかつた。接觸する勞働者達は墮落してゐて、あつかましく我々から金を引出すばかりであつた。效果のある廣い仕事の代りにまつたく、組織も系統も連絡もない、斷屑が手にあるばかりであつた。私は全く手がつけられなかつた。

監獄にゐる同志達との連絡の仕事が私に課せられた。終日暗號の手紙を書いて、晩になると汚い場末の町で、怪しげな人物と會見したり、憲兵や巡査と密會するために、陰鬱なモスクワの並木公園や、橫丁をさまよつた。かうした瞬間每にあちらへこちらへと、自分を賣る人々を見るのは厭はしい事であつた。

私達は、數回脫走計畫を立てたが、多くの金を費したほかには、何の結果も得られなかつた。チチノフとヂヤバダリを留置所から出そうとしたゝめに、憲兵下士のブハーノフが捕はれた事件の起つたのは、この時代のことであつた。

かうした重苦しい壓迫は、その頃の革命黨の事業の一般的な境遇であつた、凡ての團體は政府の手で一律に擊滅された當時司法大臣の報告によると、約八百の革命家が投獄されてゐた。短かい期間の檢擧や家宅搜索をうけたものは、それよりもずつと多かつた。

この時代の人民の中への宣傳計畫をもつたプログラムは、このやうにして政府の手で打ち碎かれた。多くの人々は期待に反した結果、このプログラムにたいして幻滅を感じ意氣消沈した。自分の仕事が正しいといふ信念が、動搖し始めると共に、その力も熱情も動搖を起した。古いものは打ち碎かれ新しい見解はなか〳〵生れて來なかつた。個々の人々はばら〳〵になつた隊列をかき集めるために徒らに努力した。彼等は忽ち落膽してしまつた、といふのは、前のやうな基礎で行動することは、何の效果もないと思はれたからである。天才的なナタンソンは漸く取り殘されてゐたチヤイコフスキー派とラヴロフ派を結びつけることが出來た。ラヴロフ派は、ラヴロフと密接な關係をもつて、新聞『フペリヨード』に資産を出し、原稿を送つて支持してゐた。がこの新しい團體も、一ケ月で分裂してしまつた。宣傳者の一隊がニージエゴロド縣へ出かけて、警察の監視が嚴重でとても他から來た分子が、田舍に住むことは出來ないといふので、間もなく引き返へして來たのはその頃のことであつた。それ以來積極的な計畫は影をひそめてしまつた。私は死を選んだ方がいゝと考へるやうな氣持になつてゐた。この時代の多くの知己の中で、私は心からの敬愛をもつた一人のラヴロフ派の秘密團員、アントン・タクシスのことを今でも忘れない。彼はかうした私の苦しい瞬間に、私の氣持をさゝえて、それ以來私の生涯を通じて殘つてゐたあるプリンシツプを與へてくれた。彼は運動失敗のある原因を指摘して、ラヴロフ派の立場から、その失敗があまりに人々が理論的になり過ぎる一方、訓練が足らず、非實際的な點にあると言つた、そのほかに彼は、運動のためには發作的なものではなくて、辛棒づよい、綿密な仕事が必要だ、それがまるで雜役的な、何の仕甲斐もないやうな細かい仕事でも、我々がいつでも喜んでするといふ氣組がなければいけないと彼は私に敎へた。彼は、私が一時モスクワを去つて田舍に住みスフヰンクス――人民を親しく見て來ることに同意した。

私は春になつてヤロシラウスキーへ行つて、縣立病院の醫士補になつた。(つゞく)

望みが叶つたころには

入交總一郎

1

貧乏な暮しをしてゐる家がありました。子供が六人もあつて、いくら働いても働いてもちつとも楽になりませんでした。お父さんは毎日、朝は納豆を賣りに、晝は子供のお菓子を、夕ぐれには豆腐を賣りに行きました。お母さんは赤ん坊を背中に結びつけるやうに背負つてから、よその家のお洗濯をしてすこしばかりのお金を儲けてゐました。そんなにして一生けんめいに働いても、貧乏ばかりしてゐました。

子供たちは、お父さんがさうしてお菓子を賣りに行くのに、自分たちはひとつだつてもらふことができませんでした。

「あたい、お菓子が食べたいわ。」と、妹の子がいひました。

「あたいも欲しい、ひとつだつていい。」と、弟の子もいひました。

「お前たちお錢をもつてるがい？」と、兄の子がふたりの兄弟にききました。

「お錢なんかないや。」

「あたいだつて……。」

ふたりの兄弟は、びつくりしたやうな顔つきで、さう答へながら兄を見あげました。

「そんなら駄目だ。お父さんはお菓子屋さんだから、ただではくれないんだぜ。」
「さうかなあ。」と、弟の子は頭を傾けました。
「さうだとも、みんな菓子屋さんのお父さんから、買つて食べるんだ。」
「そんならよその子供たちは、お錢をもつてゐるの、え？」妹の子がききました。
「ああ。」
「どうしてもつてゐるの、あたいたちはもつてゐないのに。」
「お父さんや、お母さんにもらふんだよ。」
「いいわね、あたいなんかもらはないわ、なぜ、その子たちはもらふんでせう。」
「そこのお家がお金もちだからね。」
大きい三人の子供たちはそんなことを話しました。またお父さんや、お母さんも、夜、暗い電燈の下でこんな話をしました。
「けさ、納豆はどれだけ賣れました。」
「一圓二十五錢賣れたよ。」
「お菓子は？」
「四十二錢。」
「晩のお豆腐は？」
「一圓九十二錢。」
「みんなで三圓五十九錢、利益が一圓四十錢、わたしはお洗濯をして三十錢もらひましたから、子供にお小遣ひをやりませうね。」

「うん、毎日やりたいなあ。」

「ええ、こんなに働いても、貧乏ばかりしますね。」

と、お母さんは目に涙を浮べて、ほつと溜息を吐きました。

「仕様がないさ、家には貧乏神がくつついてゐるからな。」

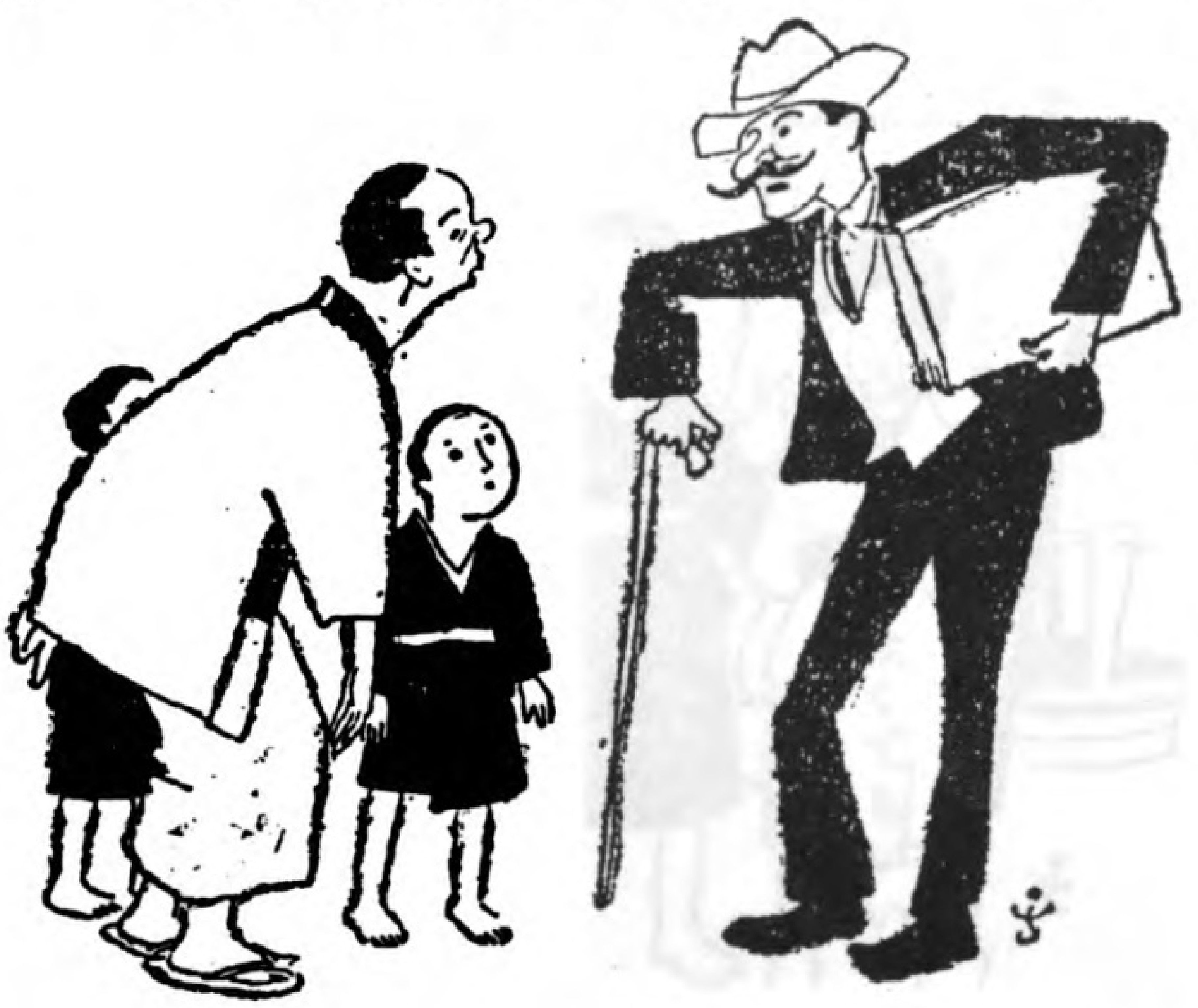
お父さんは、さういつて、細々と笑ひました。

2

雨が降つたり、雪が降つたりしますと、お父さんやお母さんの仕事は出來なくなります。幾日も幾日も商賣に出られない日がつづくこともあります。そんな日にはお洗濯が出來ませんし、お菓子を賣りに出かけても、子供たちは、たれひとり外にゐません。

「坊ちやん、今日は雨が降つて道が悪いから、お家の中でお遊びなさいと、」女中さんにいはれてゐますし、

「今日は風がひどいから、外へ出ると、風邪をひきますよ。」とお母さんにいはれます。



また、おばあさんはかういひます。

「坊や、今日はほんとにひどい雪が降つてゐますね、さあ、ここへ來て、おばあさんといつしよにおこたにあたりませう、そしておばあさんの子供のころのお話をしてあげませう。さあ、早くいらつしやい。」

冬になりますと、商賣はさうしてだんだん出來なくなつて、利益もすくないので、なかなかお金もちになれ

さうもありません。いや、貧乏はだんだんひどくなつて來ます。お父さんやお母さんは考へました。
「冬といふ奴は、なんてまあ厭な奴だらうな。ひよつとすると貧乏神が化けて來てゐるかもしれんぞ」と。
さうして六人の子供を中において貧乏なお父さん、お母さんは深い深い溜息を吐いてゐました。
ある日、洋服をきた立派な人が怒つた顔をして入つて來ましたので、子供たちはみんなびつくりしました。
「わたしは役所の役人だ、お前の家はまだ税金を拂つてないでないか。早く納めなくちやいかん、アアン」と云ひました。
「わたしの家は見る通り貧乏で、今はお金がありません。」
と、お父さんはおそれ入つて答へました。
「税金を納めないと、そのひとは牢屋に入れるぞと王様がおふれを出してあるぞ」と役人は邪慳さうに云ひました。
「はい、それはよく知つてをります。でもお役人様、私の家は、貧乏な上に、こんなに大勢の子供がをりますので、なか〳〵思ふやうに出來ません。」
お父さんは悲しさうな聲で、いまにも泣き出しさうな顔つきになりました。すると、いまゝでいかめしい風をしてゐました役人も、急にかはいさうに思つて來て、意地悪くしてゐた顔色を消してしまひました。



「それは氣の毒なことだ。さぞ、難儀なことだらうな、でもわしは王様からお給金をもらつて、税金をとりたてていく役人だから、王様の税金を勝手にゆるしてやることは出來ない、なるたけ早く納めるようにしてくれ。」と

やさしくいひました。
「はい、出來るだけ働いて……。」
「あ、さうさう、王樣のおふれに稅金を納めないひとは牢屋に入れるといふ他に、いまひとついいことがある。」
と、役人は急に思ひ出したやうにいひました。
「へえ、いいことつて、どんなおふれでございますか。」
お父さんはかがやかしさうに目をみはつてききました。
「いいおふれつてね、子供が十一人ある家には、稅金を納めなくてもいい、といふことだ。しかし、お前の家はええと六人だから、やつぱり駄目だなあ。」

3

貧乏なお父さん、お母さんは、役人が歸つて行きますと、顏を見合せて思はずにつこりしました。
「いい話をきいた。子供があと五人出來ると、稅金をゆるして呉れるんだ。」
「貧乏してると、稅金さへ拂へなくなつて牢屋へつれてゆかれるやうで心配でなりませんが、さうなると、もうそんな心配がなくなつてしまひますね。」
「さあ、あと五人の子供をこしらへよう。」
「そんなことをいつても、思ふやうに急には出來ませんよ。」
「神樣にお願ひをしてこしらへるんだよ、一生けんめいになれば、神樣でもいやだとはいふまいから。」
そこで、お父さん、お母さんは神樣にお願ひをしました。
「どうぞ、子供をあと五人さづけてくださいまし。」と、熱心にお願ひしました。神樣はお父さん、お母さんの願

ひをきいて、不憫に思つたのでせう。

それから一年目にひとりの子供が生れました。

それから二年目にひとりの子供が生れました。

それから一年目にひとり生れました。

それから二年目にひとり生れました。

それから一年目にまたひとりの子供が生れました。

ちやうど七年かかつて、五人の子供が生れました。子供たちは、次次に新らしい弟や妹が生れて來るのを喜びました。家の中は大へんにぎやかになりました。十一人の子供がいつしよに物をいひますので、家の中は騒がしいほどにぎやかで、目がまはりさうです。

お父さん、お母さんはやつぱり貧乏でありました。子供がふえるとお小遣ひに困りました。しかしひとつうれしい事が出來ました。

「さあ、これで王様のおふれどほりになつたぞ」とお父さんは喜びました。

「やつと十一人になりました」と、お母さんも嬉しさうに云ひました。

あの頃幼かつた子供も、やつと學校へ行くやうになりました。お父さんはやつぱり晝はお菓子をうりにゆきましたが、子供たちはひとつだつて貰へませんでした。

「あたい、お菓子が食べたいや」と、小さい子供が云ひました。

「あたいも」次の小さい子も云ひました。

「お錢をもつてるかい？」とその兄が聞きました。

「お錢？　もつてないや」

「あたいだつて……」
「そんなら駄目だ、お父さんはお菓子屋さんだからな、ただではお菓子はくれないんだ。」
「さうかなあ、よその子供はなぜお金をもつてるの。」
「お父さんやお母さんにもらふのよ。」
「あたいたちにはくれないね。」
「お家は貧乏だから。」
「つまらないなあ。」
「いいさ、學校の先生は出世したひとはみんな子供のときにお家が貧乏だつたつて、いまの大將や大臣や實業家はみんなもと貧乏だつたつて……。」
「實業家つてなあに?」
「お金もちのことさ。」
「いいなあ。」
「いいなあ。」
子供たちは手をさしあげて、大きい聲で叫びました。赤ん坊がその聲にびつくりして目をさまして泣きましたた

4

ある日、七年前の役人が來ました。
「お前の家は、また稅金をまだ納めないぞ。さうたびたび狡いことをしてはいかん、アアン。」と、お父さんに嚙みつきさうな顔つきをしていひました。

「どういたしまして、決してそんな狡い心はありません。」とお父さんはお辭儀をしました。
「そんなら、なぜ、早く納めないのだ。王樣は税金を納めないひとを……。」
「いえ、王樣はもひとつのおふれで十一人の子供のあるひとには税金をゆるすといつてをります。」
「うん、さうだ。お前の家は十一人の子供がゐるのか。」
「はい。」
「それでお前は税金を納めなくてもいいといふが、しかし、それはお前の考へちがひだぞ。お前の長男は二十一だ、二十一といへば立派な一人前の人間だ。すると、お前の家では十九を頭に十人の子供になるわけで、十一人にひとり缺けるわけだ。さあ、早く税金を役所に納めろ。」
お父さんはしばらく物もいへませんでした。
お母さんはあまりの當はづれで泣いてしまひました。お父さんは泣いてゐるお母さんの背中をさすりながら、
「泣くな、泣くな、家は貧乏だ、貧乏神がまだゐると見えらあ、貧乏神奴、さては子供の好きな奴と見えるわい。」
そして、力なくハハハと笑ひました。（終り）

昭和三年三月十五日　納本
昭和三年三月十八日　發行
發行編輯兼印刷者　東京市外中野町間三二四四　奥むめお
印刷所　東京市神田區淡路町二ノ三　協營社
發行所　東京牛込區市ケ谷本村町四　職業婦人社

社會思想の大圖書館！

本全集を備へずに社會問題を語ることは出來ない

社會思想全集

初めて成る！全社會思想の集大成見よ！此の偉觀を。

全四十卷一冊壹圓

今やマルクス、レーニンを口にせずして現代を語ることは出來ない。クロポトキン、プルードンを知らずして社會思想を論ずることは出來ない。サン・シモン、フーリエの昔に遡らずして近代社會科學に味到することは出來ない。社會思想は現代生活の核軸であり、現代人の糧である。而も新聞雜誌の斷片的知識と宣傳用冊子の拔書的思想とを以てしては、最早急轉する時代の要求に應ずることは出來なくなつた。今は清算の時期である。雜然たる斷片的思想は此際一齊に整理を要し組織を要し集大成を要する。「社會思想全集」は卽ち此の時代の要求に投じて生れた。過去現在八十有餘の思想家の、社會思想史上最も多くの貢獻を爲したる代表的名著を網羅して、社會思想の世界的大圖書館を建設し至廉の實費を以て坐ながらその採掘に委せんとするもの。蓋し社會問題を口にするほどの人は、何人も必ずこれだけはその座右に備へなくてはならぬと信ずる。

豫約募集

八十餘大家の

マルクス。エンゲルス。レーニン。クロポトキン。プルードン。サンシモン。オーエン。フーリエ。ルイ・ブラン。ロドベルツス。ラッサール。ベーベル。カウツキー。ベルンシュタイン。バラノフスキー。ハインドマン。リープクネヒト。ルクセンブルグ。ヒルファーヂング。クローツエ。ラブリオラ。プレハノフ。ブハーリン。トロツキー。ゾンバルト。メンガア。クノウ。デボーリン。ゴドウイン。スチルネル。バクーニン。ルクリユ。モリス。ソレル。ジョレス。ラフアルグ。ウエッブ。コール。ラッセル。ジノヰエフ。其他十數大家

代表的名著

略規

（體裁）四六判九ポイント總クロース背金各冊六百頁以上

（刊行）昭和三年四月以降毎月一冊乃至二冊刊行

（會費）一ケ月一圓、全額拂三十八圓

（送料）一冊拾四錢（市内六錢）

東京麴町下六番町

平凡社

内容見本進呈

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可
昭和三年三月十五日印刷納本
昭和三年三月十八日發行（毎月一回・一日發行）